

鹿児島大学 共通教育 英語教育活動報告書 IV

<令和 2(2020)年度—令和 4(2022)年度>

令和 5 (2023) 年 3 月

鹿児島大学 総合教育機構

共通教育センター

外国語教育部門 (既修語系)

目次

序：本報告書について	1
A. 教育内容について	1
A-1. カリキュラムの概観について	1
A-2. 開講コマについて	2
A-3. テキスト・教材について	3
A-4. 成績分布について	5
A-5. 習熟度別クラスの運用について	5
A-6. 授業での挑戦について：新型コロナウイルス感染症対応、SDGs	6
A-6-1. 新型コロナウイルス感染症への対応について	6
A-6-2. SDGs の対応について	7
B. アンケート結果について（令和 2（2020）・令和 3（2021）年度）	7
B-1. 共通教育科目授業改善に資するアンケートについて（FD 関連）	8
B-2. 鹿児島大学 IR コンソーシアム・アンケートについて	16
C. 外部試験について	20
C-1. EF SET 実施・結果について 令和 2（2020）年度	20
C-2. GTELP 実施・結果について 令和 3（2021）年度後期～令和 4（2022）年度	21
C-2-1. 令和 3（2021）年度後期 G-TELP 実施について	22
C-2-2. 令和 4（2022）年度 G-TELP 実施について	22
D. 外国語ラウンジの活動について	25
E. 外国語教育部門（既修語系）の運営について	28
E-1. 英語教員の役割 令和 2（2020）年度～令和 4（2022）年度	29
E-2. 英語ミーティングについて	32
E-3. FD 活動（ワークショップなど）について	50
E-3-1. 令和 2（2020）年度第 1 回共通教育センター外国語教育部門教員ワークショップ	50
E-3-2. 令和 3（2021）年度第 1 回共通教育センター外国語教育部門教員ワークショップ	51
E-3-3. 令和 4（2022）年度第 1 回共通教育センター外国語教育部門教員ワークショップ	52
E-3-4. ワークショップの意義と今後の課題	57
E-4. 鹿児島大学共通教育における英語教育活動報告書について	57
F. その他の活動について	57
F-1. 補習教育について	58
F-2. 修学支援について	58
結語	60

序：本報告書について

本報告書は、平成 28（2016）年度から鹿児島大学で施行された新しい共通教育改革における外国語教育の取り組み、とりわけ英語の取組みについてまとめた『鹿児島大学 平成 29（2017）－平成 30 年（2018）年度共通教育 英語教育活動報告書 II』、その後、鹿児島大学共通教育センター英語教育の成果を、エビデンス（あらゆるデータ）で英語のプログラムを分析・評価し、報告書で集めたエビデンスによって共通教育英語の健全さを訴えている『鹿児島大学共通教育 英語教育活動報告書英語教育の成果について』、この 2 冊に続く、報告書として、令和 2（2020）年から令和 4（2022）年度の概況と今後の課題についてまとめている。

これまでと違う特徴的な点は、令和 2（2020）年から令和 4（2022）年度のコロナ禍での対応を、英語教育の視点からまとめたことである。授業の実施方法、中間・期末テストの実施方法、外部試験の実施など、非対面、または遠隔で授業を行ってきた記録も含まれている。また、令和 4（2022）年度から導入し始めた Sustainable Development Goals（以下、SDGs と略記）の対応なども記載されている。

ご高覧のうえ、忌憚なきご意見やご助言を乞う次第である。

A. 教育内容について

本節では、教育内容について、まず、カリキュラムの概観（A-1）からはじめ、それに付随する開講コマの状況（A-2）、テキスト・教材の説明（A-3）、成績分布（A-4）、習熟度別クラスの運用（A-5）、ならびに、新型コロナウイルス感染症による影響と SDGs を意識した取り組みから生じた授業での挑戦について（A-6）、以下、順次、簡単に触れる。

A-1. カリキュラムの概観について

鹿児島大学共通教育センターの英語教育目標は以下の通りである。

「大学生としての英語コミュニケーション力の基礎を身に付けながら、その学習過程で、大学生としての自覚を育み、教養を深めながら、客観的な分析態度に基づく批判的思考力などを養う。」

このように平成 28（2016）年度英語教育のリ・デザインと共に出来上がった共通教育に位置した新しい英語教育ミッションになった。つまり、教養教育という概念を維持しつつ 21 世紀に必要とされているスキルを入れながら、英語運用能力を伸ばす、という目標になっている。

このミッションを具体的に体系化するために、1 年次から 2 年次にかけて英語 IA・IIA、英語 IB・IIB、英語 III、と英語 IV を開講している。これらの科目は専門分野の英語学修にむけ、接合可能な英語力の構築を養うために開講されている。

英語 IA と英語 IIA では教養（英語で言うと、Liberal Arts）を念頭に置き、読むことに焦点を当てた理解面の英語力を養う。英語 IB では専門分野の学術的内容をベースにしながらいティング力を、英語 IIB ではそれを援用したプレゼンテーションスキル（PPT の活用を含む）の構築を目指す。すなわち 4 科目を通して Intake, Interaction, Production の相互的活用を可能にする科目シフトが敷かれている。

2 年次前期に、5 学部の学生を対象に英語 III を開講している。これは、1 年次で培った英語運用能力

(英語コミュニケーション力) の応用で、上記の 3 つの領域 (英語力) を総合的に活用すると同時に、リサーチ・プロジェクト学習 (Research-Oriented Project Based Learning) で専門分野の学術的内容の理解強化を、英語を通して拡充していくことを目的にしている。それに続けて 2 年次後期には 3 年次以降の専門領域をより意識した読解&音読&発話中心の英語 IV を 3 学部対象に開講している。

以上をまとめたのが以下の図となる。

開講学期	1期		2期		3期		4期		5期		6期	
レベル	基礎 (習得と使用: 技能の選別)				応用 (技能の統合)		発展 (専門英語)		専門英語			
科目名 (ナンバリング)	1年次 (必修)				2年次 (選択)				3年次 (選択)			
	前期		後期		前期		後期		前期		後期	
	英語 I A (ELA I)	上級 中級 初級	英語 II A (ELA II)	上級 中級 初級	英語 III (ESAP I)	上-中級	英語 IV (ESAP II)		英語 V (ESP I)		英語 VI (ESP II)	
	英語 I B (EGAP I)	上級 中級 初級	英語 II B (EGAP II)	上級 中級 初級		中-初級						
単位数	2	(1+1)	2	(1+1)	1		1		1		1	
累計	2		4		5	6		7		8		

図 1. H28 導入 共通教育英語カリキュラム (1—6 期: 1—3 年次対象)

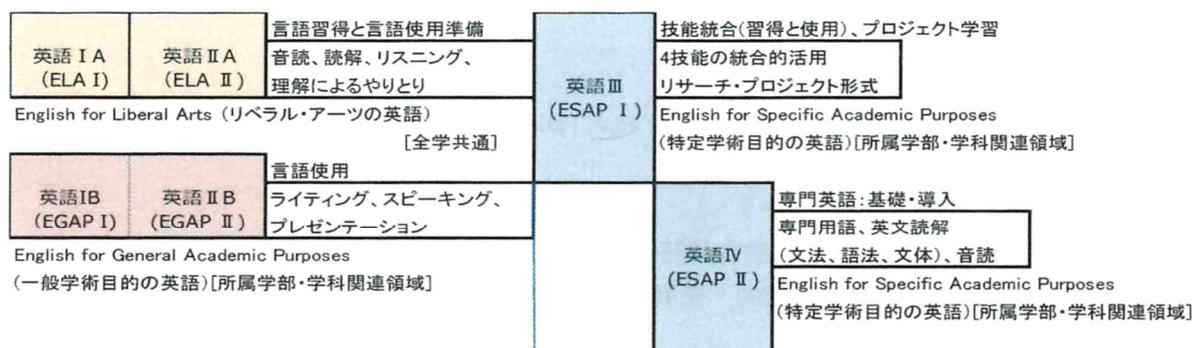


図 2. 1—2 年次開講科目の特性 (学習領域、技能習得) とナンバリング (系統立った学習の流れ)

ここで述べたカリキュラムを含む教育内容については、平成 28 (2016) 年に英語 WG により発行された 131 ページに及ぶ「共通教育英語のリ・デザイン化: カリキュラムの実質化と英語授業の系統化」で詳述している。

A-2. 開講コマについて

令和 4 (2022) 年度共通教育英語の開講コマ数はおおよそ 265 コマである。1 年次の英語教育には 214 コマがあり、2 年次には 51 コマがある。前期と後期に分ければ、前期に 141 コマ、後期には 124 コマが用意されている。これほどたくさんのコマを外国語教育部門で提供するのは一苦勞であるが、学生に教育の質を確保するのに必要なコマ数でもある。これぐらいの共通教育英語のコマ数はどうしても堅持する必要がある。

1 年次に週 2 回、2 年次に週 1 回の英語授業の設置は英語力育成のミニマム条件と捉えている。高校までの英語授業時間と比べてかなり低い。が、大学が置かれている状況を考えれば、予算的にも人員的

にもこれ以上共通教育英語の授業科目を増設することは現実的に難しい状況にある。

実は、現在の 265 コマは 3 年前の約 301 コマと比較して、3 年でコマ数を 10%以上削減している。3 年連続 10 コマ以上を厳格にカットしている。これ以上削減できるコマはない状態にある。教育の質を保ちながらコマ数を減らすことの限界点にきている。

削減できない理由の主因はクラスサイズの適正化とつながっている。英語 IA・IIA には学生 40 人程度で授業が成り立っている。英語 IB・IIB は Production (アウトプット) 主体のため、35 人程度のクラスサイズにしている (これでも多い)。英語 III (リサーチ型プロジェクト学習スタイル) も同様の理由による。英語 IV はリーディング中心のため、40~45 人程度に抑えている。仮に予算的なゆとりが少しでもあるなら、英語クラスサイズをより小さくする必要がある。

開設科目とそのコマ数と当該予算の問題、すなわちカリキュラム・マネジメントとの関係も絡めて述べると、共通教育英語科目 (全体) の約 40%を非常勤講師が担当している。非常勤講師に 1 コマあたり約 170,000 円の講師料を支払っている。他方、1 コマの授業料収入 (19,500×35 人の場合) は約 680,000 円となっている。専任教員と非常勤講師のコストリカバリーを合わせると、共通教育英語については割安感があるという印象がある。

最後に現在の共通教育英語をみたとき、約 267 コマが必要となっている。仮に共通教育英語を担当する専任教員の持ちコマを 11 とした場合、約 24 名が必要となる (註. 非常勤講師ゼロを想定)。人件費 (運営交付金との関係) のうえで、この利用には無理がある。しかし大学全体、共通教育全体の質的担保を考えた時、全体コマの 7 割 (約 187 コマ) を専任が担当するのが 1 つボーダーではないだろうか (社会的信頼性と教育的質の確保において)。そうすると、の 17 人の専任教員が必要となる (他学部の英語専任教員からの派遣・移動を含めて)。しかしこの数字は現実的に可能な範囲にはない。きわめて予算的に厳しい要求 (必要数字) となっている。現時点で共通教育英語だけを担当しているセンター英語教員は 10 名である。昨年度 2 名の専任教員が異動、退職により抜けた状態が続いている。10 名は厳しい状況と言わざるを得ない。少しでも補充しなければ、中長期的な英語教育改革に取り組むにあたり、必ずや支障をきたすおそれがある。

A-3. テキスト・教材について

令和 2 (2020) 年度は全国的に新型コロナウイルスが流行したため、例年とは異なり、多くの学生は大学生協からテキストを自宅へ郵送してもらう方法でテキストを入手した。入国が困難だった留学生に関しては、自国で教科書を入手したり、テキストのデータを共通教育係または授業担当者から送る等の方法を取り (ただし、出版社から承諾を得た場合のみ)、学生の授業に差支えないよう工夫した。このように、出版社を始め、共通教育係の事務の方々や各授業担当者から多くの協力を得た。令和 3 (2021) 年度推奨テキストリストはシラバスの見直しは行われなかったため、引き続き、前年度の ELA コース (英語 IA、IIA)、EGAP コース (英語 IB、IIB)、ESAP コース (英語 III、英語 IV)、ESP コース (英語 V、英語 VI) のシラバスの内容に従い、適したテキスト選定を行った。例年とは異なり、新型コロナウイルスの流行で、各出版社の営業担当者が来学できない状況だったため、出版社によっては新刊テキストを中心に本学のシラバスに沿ったテキストを自ら郵送して下さった。また、教科書係の方から別途依頼したり、教員側からの推薦テキストも参考にして取り寄せることで、内容の充実した推奨テキストリストになるよう心掛けた。取り寄せたテキストの選定作業は当センター英語専任教員で分担して行った。また、オンライン授業が導入されたこともあり、教員側の授業方法の変更・工夫が求められたため、

オンライン授業に適したテキストに関しては、教員が分かりやすいように推奨テキストリストに欄を設けて明記した。

令和3(2021)年度のテキスト購入方法は、学生が来学して購入する形を取った。令和4(2022)年度の推奨テキストリストについては、シラバスの見直しが行われなかったため、引き続き、前年度でも使用した ELA コース(英語 IA、IIA)、EGAP コース(英語 IB、IIB)、ESAP コース(英語 III、英語 IV)、ESP コース(英語 V、英語 VI)のシラバスの内容に適したテキスト選定を行い、作成した。当年度も新型コロナウイルスの影響で各出版社の営業担当者が来学できない状況だったため、前年度同様、出版社からの郵送、教科書係の取り寄せ、そして教員側の推薦に基づき、候補の追加テキストを集めた。選定作業は当センター英語専任教員で分担して行った。

なお、令和4(2022)年度から第4期中期目標・中期計画[5-2]が開始され、6年間の目標の1つとしてSDGsの観点を活かした教育を推進することが決まった。これに伴い、令和4(2022)年度推奨テキストリストのIA・IIAにSDGsの欄を追加した。次年度の令和5(2023)年度以降の残り5年間でIA・IIAをはじめ、それ以外の授業でもSGDsを一部でも導入していく方針である。

令和5(2023)年度は、新型コロナウイルス感染症による規制の緩和に伴い、各出版社の営業担当者が直接来学することも増えたが、前年度から引き続き、出版社からの郵送や教科書係の直接の取り寄せ、そして教員側の推薦に基づいて候補の教科書を集めた。リスト上の教科書の冊数の増加に伴い、使用されていない教科書のリストからの削除を行い、新教科書の選定作業の遅れに伴って、最終的な選定とリストの作成は教科書教員が行った。

令和5(2023)年度の教科書リストの作成過程から浮かび上がってきた次年度以降の課題点は以下の通りである。まず、①過去に採用した教科書のリストへの掲載を取りやめる際の基準を明確化する必要がある。リストに掲載されている全ての教科書の出版年度を確認したところ、現在の教科書リストに掲載されている教科書の中には出版年度が古いものが何冊か含まれており、科目や取り扱い内容によっては現在のシラバスや教育課程にそぐわない可能性があるため、出版年度でのリスト掲載の可否については審議する余地がある。ただし、一部の教科書は導入時のままであり、改訂版などが差し替えられていないこともあったので、今度、時間を見つけ、確認作業をしていく必要がある。次に、②各科目の教科書の取り扱い内容の基準も明確化する必要がある。近年出版されリストに追加された教科書の中にも、シラバスで言及されている内容を含まないと考えられるものがある。例えば、英語IBではパラグラフライティング、英語IIBではプレゼンテーションを取り扱うこととなっているが、リストに掲載されている教科書の中には、これらを取り扱わないものも含まれているようである。このような教科書がリストに含まれていると、英語科目全体の授業内容の統一性が失われるため、各科目の教科書の取り扱い内容を英語ミーティング内で議論し、リスト内の既存の教科書の内容も一冊ずつ再確認する必要がある。最後に、③教科書や補助教材の利用に関して、教員間で情報を共有できる場を設けていきたい。教科書を実際に利用した教員からの教科書そのものへの評価が教員間で共有されないために、取り扱い内容が適切でない、または単純に教員にとって使いづらい教科書がリストに掲載され続ける可能性がある。また、教科書の利用やオンライン教材、XreadingやEnglish Central等のシステムをどのように活用して授業をしているのか、教員間で情報交換を行うことで、各教員が毎年の教科書の選定に役立てることができるような支援も行っていきたい。特にオンライン教材やXreadingなどのシステムは学生の自律学習支援のためのツールとして有益であるため、このような教材の使用に精通していない教員のために、教材を実際に利用している教員から利用方法に関して情報提供を行うことで、教員の教科書選定の選択

肢の幅を広げることできる。

次年度以降は、スケジュールの調整を行いながら上記の課題点を英語ミーティングで共有して、より良い授業の提供に貢献できる教科書や教材の選定を引き続き行っていきたい。

A-4. 成績分布について

令和元(2019)年度に成績に関する申し合わせを外国語教育部門(英語)独自で作成することにした。共通教育英語での成績分布には乱れや偏りが見られるという指摘があった訳ではないが、GPAの導入などを考えて成績分布に注意を払うべきだと考えた。以下が英語担当教員全員に配布している資料である。

鹿児島大学共通教育センター
外国教育部門(英語)

成績に関する申し合わせ General Understanding about Grades

共通教育センター英語科目(英語 IA/IIA、IB/IIB、III、IV)の各クラスの成績分布を下記のモデルを目安として考えています。

We aim for the following grade distribution with General Education Center English classes (English IA/IIA, IB/IIB, III, IV).

評点	成績分布
100-90	0-20%
89-80	10-40%
79-70	10-40%
69-60	10-40%
59-0	0-20%

*受験資格がない学生(欠席が多いなどの場合)は含まない。

*習熟度別クラスを実施しているので、全てのレベルにこのモデルを機械的に当てはまるわけではない。

英語ミーティングで申し合わせを決めてから数年たっているが、申し合わせがないよりは良い結果になっていると考えている。現時点で、申し合わせに関する異見は出されていない。しかし、資料に記されている通り、習熟度別クラスを実施しているので、すべてのレベルにこのモデルが機械的に当てはまるわけではないので、この点は今後の検討課題としたい。

A-5. 習熟度別クラスの運用について

鹿児島大学の共通教育英語は平成 20(2008)年度から現在に至る全学規模での習熟度別クラス編成

で行われている。殆どの学生が大学入試センター試験を受験しているため、センター試験英語のスコアを利用し、初級（h レベル）、中級（p レベル）、と上級（v レベル）の三つの級に分けられて、授業を設けている。更に、一部の学部では上級プラス（v0 レベル）及び・又は初級の基礎（h3～h6 レベル）のクラスを設けている。センター入試を受けていない日本人新生は、初級（h レベル）または初級の基礎（h3～h6 レベル）に配属されている。また、センター入試を受けていない留学生のため、授業が始まる直前に文法中心のプレイズメントテストが実施され、適切なレベルのクラスに配属されている。令和 2（2020）年度以降に入学の留学生に関して、新型コロナウイルスの影響によりオンラインで実施している EF SET 外部試験をプレイズメントとして使用している。習熟度別クラス編成によって、学生一人一人に合った英語教育を実施している。共通教育センターの履修案内では学生にも習熟度別クラス編成という制度を紹介している。

A-6. 授業での挑戦について：新型コロナウイルス感染症対応、SDGs

令和 2（2020）年の 4 月以降、新たに 2 つのことに就いて行ってきた。1 つ目は新型コロナウイルス感染症対応、2 つ目は第 4 期中期計画における SDGs の対応である。以下に 1 つずつ見ていきたい。

A-6-1. 新型コロナウイルス感染症への対応について

令和 2（2020）年度は、新型コロナウイルス感染症を気にしながら始まった。4 月中旬に前期は遠隔授業の実施が決まった。遠隔授業が決定されると、教員は授業計画や授業内容の見直しを求められ、対応に追われることとなった。英語教員は 4 月上旬に臨時英語ミーティングを開催し、現状の共有を行うと共に、manaba を活用した授業の行い方や Zoom の使用方法を学んだ。初修語教員もお互いに学び合いながら授業への対応を行っていった。また、高等教育研究開発センターと事務職員と協力し、専任教員だけでなく、非常勤講師にも manaba と Zoom の講習会を数回開催した。講習会に参加できなかった外国語非常勤講師に対しては、個別に対応し、先生方に遠隔授業への対応をサポートした。その上で、大学より「オンライン授業講義の実施について」という資料が提示され、そこから遠隔授業の形態を選び、授業を行うようになった。これに対しても全ての教員が問題なく授業ができるようにサポートを行った。当初は授業を行う際に、困難なことも多かったが、英語教員は協力し合い、情報交換し合いながら、できるだけ対面と遜色のない授業運営を目指した。中間・期末テストに関しても対面での実施が難しく、遠隔での実施かレポート提出等での対応が求められ、苦労が多かった。後期は 10 月と 12 月にスクーリング期間が設けられ、対面での授業を 1～2 週行うことが決まった。ただし、教室では学生は間隔を空けて座るようになっていたため、外国語教育で通常行っていた会話練習やペアワーク、グループワークなどが行いにくい状況は続いた。そのため、感染症対策を気にしなくても行える Zoom での授業を行う教員が後期は前期より増えた。また、Zoom での授業では学生は同じ授業を履修している学生とも話し合いができる利点もあり、学生間や学生と教員間の信頼関係の構築にも役に立った。教科書購入と使用に関しても通常と異なる対応が求められた。前期に、県を跨いで移動が制限されており、大学は県外からの学生に対し、大学の入学式が始まる前に引っ越して 2 週間待機するように周知していたにも関わらず、県外の実家に居続けて大学に来ることができない学生がいることがわかり、そういった学生への教科書購入と未入国留学生の教科書購入に関して、大学生協の担当者と話し合いを行ったり、出版社と連絡を取ったりして、テキストのデータを学生に提供するなどの対応を行った。

令和 3（2021）年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症を意識しながら授業を実施した。遠隔授

業2年目のため、教員はすでに manaba や Zoom の使用には慣れており、各教員が工夫を凝らした授業を実施していた。また、対面授業を希望する教員は、対面授業を再開することも認められた。感染拡大に伴い、遠隔授業しかできない時期もあったが、令和2年度よりは混乱も少なく、授業を行うことができた。未入国留学生への対応や彼らの教科書をどのようにするかなど問題は昨年同様にあったが、事務職員と協力をしながら、学生がきちんと授業を受けられるように対応を講じてきた。

令和4(2022)年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症を意識しながら授業が行われた。3年になると対面授業に戻す先生も多く、対面授業のみ、または対面と遠隔のハイブリッドで授業を行う先生方が多くなった。また、遠隔のみで授業を実施する先生方はかなり減ったように思われる。中間・期末テストも感染症対策を取りながら、対面での実施もコロナ前のように実施することもできた。

A-6-2. SDGs の対応について

令和4(2022)年度から始まる第4期中期計画(外国語教育部門)案を作成するよう教育担当理事から依頼を受け、教育担当理事、学生部長、共通教育センター副センター長、外国語教育部門長を中心に内容を検討するための会議を何度か行った。そこで出された内容を英語ミーティングで諮り、意見聴取し、まとめて内容を検討してきた。その結果、令和4(2022)年度からの共通教育における英語授業では、1年次の英語 IA・IIA (reading) の内容として SDGs に関連する内容を取り扱うことを決めた。具体的には、教科書選定時に推奨テキストリストを精査し、SDGs に関連する内容を含むものを含める。また、推奨テキストリストにも SDGs 関連の教科書かどうかわかるように工夫をすることを提案した。しかし、英語活用能力を育成することが主ということで、SDGs 関連の授業は一部であり、他はスキル育成のための授業を残す。従って、1年次生の英語 IA・IIA に SDGs 関連をテーマとして取り入れ、スキル中心の英語 IB・IIB は現在のライティングとスピーキングのままとする方針を提案した。令和4(2022)年2月に作成した推奨テキストリストでは、SDGs 関連の教科書かどうかわかるように欄を設け、印を付けた。しかし、なぜ SDGs の欄を設けたかの説明は行わなかった。令和5(2023)年2月に推奨テキストリストを送る際に、令和5年(2023)年度に向けて「2023年度共通教育英語について」という説明文(日・英語)を作成し、英語教員に SDGs の観点を活かした授業推進について周知し、推奨テキストリストの変更点を説明した。

B. アンケート結果について(令和2(2020)・令和3(2021)年度)

日本の研究力や日本企業の競争力の低下が問題視されるなか、また AI などによる翻訳技術が日々向上するなか、英語力の必要性、英語教育のあり方も度々議論される。同時に、日本政府は日本人留学生の数を増やす目標を掲げ、国内企業の外国人人材を受け入れる環境の整備にも力を入れている。そのため、やはり大学における英語のみならず外国語教育全般が必要不可欠であり、学生のキャリアにおいて大きな役割を今後も果たすと言える。共通教育センター外国語教育部門(既修語系)の専任教員10名および非常勤教員50名近くが英語教育体制を充実させ、学生の英語力の向上に向けて、全力で活動している。学生のアンケート調査の分析により英語の授業が毎年高く評価されており、英語教育に関わる教員全員が十分に役割を果たし、専門的な知識と日々進化する教授法による効果が現れている。

以下、FD 関連の共通教育科目授業改善に資するアンケートについて(B-1)、ならびに、鹿児島大学 IR コンソーシアム・アンケートについて(B-2)、それぞれの結果の概要と分析結果の要点を説明する。

B-1. 共通教育科目授業改善に資するアンケートについて (FD 関連)

共通教育科目授業改善に資するアンケート（これから、「授業アンケート」という）の結果から、共通教育センターにおける英語教育やその効果の実態が推測できる。令和 2（2020）年度から令和 3（2021）年度前期の結果を下記にまとめる。

先ず、令和 2（2020）年度前期・後期の結果を見る。英語の欄には英語 I と英語 II（共同獣医学部だけの授業）及び英語 V と英語 VI（学部の英語授業）が記されているが、説明から省く。新カリキュラムの英語 IA・IIA、英語 IB・IIB、と英語 III、英語 IV の結果を中心に説明する。

2020年度 科目名	授業満足度					授業外学習時間							
	とても良かった	おおむね良かった	あまり良くなかった	全く良くなかった	全くなかった	30分未満	30分～1時間	1時間～1時間30分	1時間30分～2時間	2時間～3時間	3時間～4時間	4時間以上	
英語IA（前期）	44.70%	48.50%	5.50%	1.30%	1.60%	5.80%	25.60%	30.10%	20.00%	11.30%	3.80%	1.80%	
英語IB（前期）	45.70%	47.50%	5.80%	1.00%	1.80%	5.60%	22.90%	29.60%	20.20%	14.50%	3.80%	1.60%	
英語III（前期）	37.40%	49.80%	9.80%	3.00%	1.30%	6.10%	22.40%	30.90%	21.10%	12.60%	6.70%	3.30%	
英語IIA（後期）	47.50%	44.30%	6.40%	1.90%	1.00%	6.60%	23.10%	31.40%	19.80%	12.10%	3.10%	3.00%	
英語IIB（後期）	57.30%	36.70%	4.10%	1.80%	0.90%	6.50%	29.00%	27.00%	20.40%	9.40%	3.60%	3.30%	
英語IV（後期）	44.40%	49.10%	5.30%	1.10%	4.80%	7.10%	26.20%	20.20%	17.90%	11.90%	2.40%	9.50%	

令和 2 年（2020）度前・後期共通教育科目授業改善に資するアンケート結果（一部抜粋）

授業への満足度に関しては、前期・後期とも非常に良く、約 85～95%の学生が「非常に良かった」か「おおむね良かった」と答えた。また、前期より、後期の方が評価が若干高くなっていることも明らかである。授業に満足していないと回答した学生の数も後期に減っている。これは非常に良い結果と言える。授業外学習時間に関しては、英語が単位の実質化に適っていることが分かる。一つの授業に 1 時間の授業外学習時間が課せられることが英語科目の目的となっているが、英語科目はしっかりと単位制度に従っていると言える。しかし、前期に英語 III の授業満足度における否定的な評価は 13%近くに達していることや、後期英語 IV について 12%弱の学生が授業時間外に学習あまりしていないなどの課題も残る。

次に、令和 3（2021）年度前期・後期の新カリキュラムの英語 IA・IIA、英語 IB・IIB、と英語 III、英語 IV の結果を中心に説明する。

2021年度 科目名	授業満足度					授業外学習時間							
	とても良かった	おおむね良かった	あまり良くなかった	全く良くなかった	全くなかった	30分未満	30分～1時間	1時間～1時間30分	1時間30分～2時間	2時間～3時間	3時間～4時間	4時間以上	
英語IA（前期）	49.6%	43.2%	5.7%	1.5%	1.6%	9.1%	28.0%	28.0%	17.9%	10.3%	3.1%	1.8%	
英語IB（前期）	47.5%	44.9%	5.6%	2.0%	2.0%	6.8%	24.3%	31.8%	18.5%	10.8%	3.8%	2.0%	
英語III（前期）	44.5%	45.3%	9.3%	0.8%	1.3%	6.8%	22.2%	29.9%	20.1%	13.3%	2.8%	3.6%	
英語IIA（後期）	52.8%	42.5%	4.1%	0.7%	0.9%	7.0%	30.5%	34.8%	16.9%	7.9%	1.1%	0.9%	
英語IIB（後期）	55.4%	39.6%	3.9%	1.0%	1.0%	11.0%	34.5%	30.6%	14.9%	5.9%	1.0%	1.0%	
英語IV（後期）	51.0%	45.5%	3.3%	0.3%	0.6%	8.0%	33.6%	35.3%	14.3%	6.6%	1.4%	0.3%	

令和 3 年（2021）度前・後期共通教育科目授業改善に資するアンケート結果（一部抜粋）

授業への満足度は令和 2（2020）年度よりも高く、コロナ禍でも質の高い英語の授業を提供できたと言える。約 89～96%の学生が「非常に良かった」か「おおむね良かった」と答えた。この年も同じく、前期より、後期の方が評価が高くなって、鹿児島大学の授業スタイルや学習目標に学生は馴染んできていることを示しているかもしれない。授業に満足していないと回答した学生は、やはり後期に大きく減っ

ている。授業外学習時間に関しては、一つの授業あたりに1時間またはそれ以上の授業外学習時間を費やしている学生が最も多く、英語科目はしっかりと単位制度に従っていると言える。令和2(2020)年度で観察された問題であるが、前期に英語IIIの授業満足度における否定的な評価は3%減っているものの、他の英語の授業と比べてまだ高い。授業時間外学習について、「全くしなかった」及び「30分未満」と答えた学生数は、前年度より全体的に上がっている。これは、おそらく、遠隔授業の実施により課題の量が増えたという大学全体の課題があり、それを緩和するように影響を受けた結果の可能性はある。

加えて、「講義内容について考えさせる促し」の有無及び「学習成果」について以下、分析・報告をする。

2020年度	講義内容について考えさせる促しありましたか				学習成果得られましたか			
	積極的に促していた	おおむね促していた	あまり促していなかった	全く促していなかった	十分得られた	おおむね得られた	あまり得られなかった	全く得られなかった
英語IA(前期)	51.50%	41.40%	6.20%	1.00%	34.00%	58.10%	6.60%	1.30%
英語IB(前期)	55.40%	38.50%	5.30%	0.80%	38.00%	55.90%	5.30%	0.80%
英語III(前期)	50.40%	40.20%	7.20%	2.20%	29.40%	59.30%	9.10%	2.20%
英語IIA(後期)	57.30%	44.30%	6.40%	1.90%	35.10%	57.50%	6.00%	1.40%
英語IIB(後期)	57.30%	36.70%	4.10%	1.80%	44.80%	49.80%	4.60%	0.90%
英語IV(後期)	57.30%	49.10%	5.30%	1.10%	26.90%	64.40%	8.00%	0.70%

令和2年(2020)度前・後期共通教育科目授業改善に資するアンケート結果(一部抜粋)

令和2(2020)年度前期の英語IA、英語IB、と英語IIIでは学習成果を「十分得られた」か「おおむね得られた」と答えた学生の割合は90.4~93.9%である。英語教員が学生に講義内容について考えさせるような促しがあったかという設問に関して、88.7~93.9%の学生が「積極的に促していた」か「おおむね促していた」と回答した。英語教員は、より効果的で役に立つような授業を提供したと学生が感じたようである。後期の英語IIA、英語IIB、と英語IVでも高い水準が守られ、ほぼ同じような結果である。前期よりも「考えさせる促し」を感じた学生が多く、授業と自分の生活や社会との関連性について考える態度が確立しつつあるとも言える。その結果、学習成果を「十分得られた」及び「おおむね得られた」学生の割合は、後期に全授業で91%以上である。

2021年度	講義内容について考えさせる促しありましたか				学習成果得られましたか			
	積極的に促していた	おおむね促していた	あまり促していなかった	全く促していなかった	十分得られた	おおむね得られた	あまり得られなかった	全く得られなかった
英語IA(前期)	61.4%	33.8%	4.0%	0.8%	36.80%	54.90%	7.20%	1.10%
英語IB(前期)	59.1%	35.0%	4.9%	1.0%	43.20%	49.30%	6.20%	1.30%
英語III(前期)	54.0%	40.0%	5.3%	0.6%	33.50%	57.40%	8.10%	1.10%
英語IIA(後期)	65.9%	31.3%	2.6%	0.3%	37.70%	57.30%	4.20%	0.80%
英語IIB(後期)	64.5%	32.2%	2.9%	0.5%	42.80%	51.60%	4.90%	0.70%
英語IV(後期)	64.5%	33.3%	1.7%	0.6%	31.70%	62.50%	5.00%	0.80%

令和3(2021)年度度前・後期共通教育科目授業改善に資するアンケート結果(一部抜粋)

令和3(2021)年度前期の英語IA、英語IB、および英語IIIでは、考えさせる促しを「積極的にしていた」あるいは「おおむねしていた」と答えた学生の割合は前年度よりも高く、94~95.2%に達する。

本「授業アンケート」の結果を元に絶えず努力して改善を図っている教員のおかげである。また、令和2（2020）年度同様に、令和3（2021）年度後期の英語 IIA、英語 IIB、および英語 IV でさらに高い評価が得られている。95.7～97.8%の学生が「考えさせる促し」を実感できた。その結果、学習成果を「十分得られた」及び「おおむね得られた」と答えた学生の割合も高く、前期では 90.9～91.7%で、後期には 94.2～95%の学生が英語の授業内容に満足しているようである。

本「授業アンケート」の結果を受け、学期毎に教員は学生の学びの実態を確認し、自身の授業の改善に努める。そのプロセスの一環として「授業改善メモ」の提出が求められている。以下に、令和2（2020）・3（2021）年度の「授業改善メモ」のまとめを掲載する。

▶ 令和2（2020）年度「授業改善メモ」のまとめ

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- 1時間から1時間30分が大半を占めていた。程よいと思う。（英語 IA）
- 1時間から4時間と幅があるが、英語表現（paragraph writing）の範例考察に係る授業予習以上に、自ら考えた内容を英語パラグラフにまとめる予習では、おのずと時間を要したであろうと思われる。（英語 IB）
- 1時間半から2時間未満が大半を占めていた。学生自身が調べたりすることが多い授業のため、程よいと思うが、宿題の量が多かったという意見が多くの子からあった。（英語 III）

2. 受講生が実感する学習成果

- グループワークで色んな考えを共有でき、理解を深めることができたようだ。グループワークに対する肯定的なコメントが多かった。概ね良好だったのではないか。（英語 IA）
- 9割以上の学生から実感の回答を得たが、特にオリジナル英文（paragraph）は、意味のまとまりを意識した「音読」までを、学びの射程にいれられたら良かったと思う。（英語 IB）
- Overall, I am satisfied with the result of this question on the survey. The large majority of students have expressed high learning outcomes from the course. The writing ability of many students clearly improved throughout the course. （英語 IB）
- Overall, I am satisfied with the result of this question on the survey. The large majority of students have expressed high learning outcomes from the course. I feel that the students get a good deal of satisfaction from delivering a good presentation. I will continue to push them to hone their presenting skills. （英語 III）

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- できる限り、Zoom では一方的な講義にならないように問い掛けを沢山した。グループで他の学生の考えも共有できるように工夫した。（英語 IA）
- グループワークで、学生同士で考え、意見交換を行ったようある。概ね良好だったのではないか。（英語 IA）
- 9割以上の学生から評価を受けたが、意見、考え、成果物をリアルタイムの音声を通じて学生間で分かち合うところまでを授業内で狙えると、さらに良いのだと思う。（英語 IB）

- 全員が「積極的に」「概ね」促したという回答であった。その意味で何とか私の熱意は通じたと思われる。しかしながら、遠隔授業でも学生自身が集中してリスニングや発話練習に参加したかどうかは気がかりである。(英語 IB)

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- 課題で受講生の多くがつまづいた部分を中心に、翌々週に詳しく解説を掲載した。この点について肯定的なコメントが多くあった。(英語 IA)
- グループワークを好んでいたようである。オンラインの場合、グループ全体が見れるわけではないので、少し不安ではあったが、概ね良好だったようである。(英語 IA)
- 総合評価として「とても良かった」「おおむね良かった」という評価が半分半分だった。オンライン動画と zoom の授業を交互にしたため、じっくり考えることができたという意見があった、また、要点が分かりにくいという指摘が1名からあり、課題の量が他のクラスと比べ多いと感じた学生が数名いたようだ。(英語 IB)
- The results for this question were very positive. I am satisfied with this in particular because I spent a great deal of time trying to make the class function well under the online learning conditions. Most students seemed to adapt well to the new circumstances. (英語 IB)
- 「とても良かった」28%で、「おおむね良かった」の評価が大半だった。本年度初めて担当した科目でもあったので、来年度は内容を充実できるよう、検討したい。また、宿題の量が多かったという意見が多かった。(英語Ⅲ)

5. 遠隔授業において工夫した点

- 1年生は交流の場があまりない為、授業開始後トピックを与え英語で話し合う時間を作った。時間が余った時は、授業の情報交換を日本語ですてよいということで、話す機会を設けた。(英語 IA)
- ブレイクアウトの際、可能な限り全グループに参加し、理解度の確認を行った。(英語 IA・英語 IB・英語Ⅲ)
- Manaba の様々な機能を使った。最初はそれぞれの機能の特徴をよく理解できていなかったが、今ではある程度理解しており、目的に合わせて使うよう心がけている。(英語 IA)
- 今回、課題提示はもちろん、指示や説明はすべてワード利用であった。文字に意味を込めていく分、否応なく量が増えて煩雑となったことは否めない。(英語 IB)
- 他の生徒が書いたものを添削することで意見交換し、さらに、それに基づき清書したものを教員が添削をし、解説を加えた。(英語 IB)
- ブレイクアウトルームを利用する際中、学生は教員のパワーポイントが見えないため、別途文書を作成し、事前にダウンロードしてもらった。(英語 IB)
- Based on my own communication with the students it seems the large majority preferred this method. In my opinion, particularly for language learning, being able to see and hear teacher and classmates is essential. (英語 IB)
- プレゼンの評価基準を事前に提示し、ポイントを把握してもらった。採点后、どの項目が不足しているか、良かった点を明確にできるようにした。(英語Ⅲ)

6. その他

- 学生の授業外学習時間を全科目一律に問うことは仕方ないとしても、それによって学修成果（授業の良し悪し）を測ることはできないと考える。科目の性格（知識や技能中心だったり、論理・思考力を問うたり）も違うからである。学生自身もどの科目に力を入れるか、めりはりや個性があつて良いと考える。（英語 IB）
- アンケートへの回答を呼び掛けたのですが、回収率が低い結果となってしまいました。対面の時は、その場で行っていたため、多くの回答をもらえたのですが、今回は難しかった。（英語 IB）

▶ 令和3（2021）年度「授業改善メモ」のまとめ

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- シラバスは1時間程度と書いて、多くの学生がそれに応えていました。
- 昨年、課題量が多いという意見が多く、見直したが、そのため平均時間が低くなっていた。
- 30分以上1時間未満と1時間以上1時間30分未満が一番多いが、1時間30分以上2時間未満の受講生が極端に少ないのが気になる。
- 授業で扱った箇所について、各自で更に調べてコメントを作成する時間を設定すると学習時間も増えると思う。
- I will continue to impress upon them the benefits of practice and independently honing their skills.
- I will reassess the amount of homework assigned and look for ways to encourage more independent study.
- 小テストなども検討したい。
- I believe that 90 minutes per week is quite reasonable for these students. In-class time was utilized more for cooperative activities, while report writing and survey activities were done outside of class time.
- 毎日コンスタントに英語に接するような課題を出す。
- 問題意識をもたせて自分で探求し独創的な考えをもてるように導いていけたらと思う。
- 授業で扱った箇所について、各自で更に調べてコメントを作成する時間を設定すると学習時間も増えると思う。
- 掲示板では、学生と教員相互の交流（質疑応答）がもっと活発に行えればよいと考える。今期は学生が演習をし、教員が評価・講評をするところで終わった。勉強法の悩みや相談なども聞けたら良いと思う。
- 学部の Glexa という LMS を用いて、往復型宿題を作成して、それぞれのメンバーの授業時間外学習を確認する。
- 「講義の課題量がとても多く、本当に負担だった」とのコメントもあったが、このような学生には、個別にやり方を指導するなど措置が必要。
- Increase the weekly reading load for IA students by more reading from textbook or online reading services.
- Improved reading assignment and revision questions must be introduced to help motivation

and provide more of a challenge .

2. 受講生が実感する学習成果

- プレゼンテーションは、全てのメンバーが平等に作業に関わり力量を伸ばすというところの難しさを実感した。
- グループで話し合い（Zoom のブレイクアウト）を通して、様々な考え方を共有できた。
- I feel that the students get a good deal of satisfaction from delivering a good presentation.
- Students felt they could develop reading skills and solve problems. However, several students did want explanations in Japanese.
- Students felt they could communicate in English, learn about native pronunciation and develop creative writing skills.
- 総合教材であったため、英語の 4 技能をそれぞれ取り扱うことが出来た。出席率もおおむねよく、DVD 教材も一度取り扱って好評であった。
- 最終的に学術的なプレゼンテーションを行う、という、学習成果を実感しやすい科目でもあり、それを達成できたと感じたようだ。
- Most students enjoyed the use and amount of group work in the class. As well as the chance the help each other and discuss the meaning of the readings.
- グループメンバーが同じ土俵でディスカッションできるように、グループ分けにも工夫が必要と感じた。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- 予習を心掛けるように指導した。またレポート課題も与えた。
- 学術プレゼンテーションの各側面について、問題点等をペアで考えてみる課題を行い、それを踏まえて自分で書いてみる、作成してみる、などの活動を促した。その趣旨は伝わったようだ。
- Students seemed to enjoy the style of the class, however some would have preferred face to face rather than being almost entirely online.
- 各グループで、プレゼンテーションのトピックを選んで、自主的に取り組んでいたようである。
- オンラインの授業で Zoom のブレイクアウトを利用した。隔週で対面授業を実施した際、接近しなくてはならない活動にならないよう注意したが、語学科目でコミュニケーションを控えるのは非常に違和感があり、授業方法に非常に悩んだ。
- Zoom での遠隔となったため、できるだけコミュニケーションの機会を多く持つことにした。また受講者の要望に応じて副教材を準備した。
- I am very satisfied with this result. I think it shows that the focus of the classes is clear to the students and they are all understanding the purpose of each class.
- I will continue to try to convey a clear purpose for everything I teach.
- 目的を明確に自ら持つように促す工夫と、有用感を得させる必要生を感じる。やれるところから工夫していきたい。
- 様々な制限がある中、オンラインではツールを利用しながら工夫し、対面授業では短時間のペアワークを中心に可能な事を行った。学生同士、顔を合わせるだけでも喜んでいただけたため、大変気

を使ったが、実施して良かった。

- 授業でのトピックについて、更に幅広い思考展開ができるようにしたい。
- While this was an online course, I made a lot of effort to allow extra time for discussion and collaboration between the students.
- I strongly believe that it is important to allow students adequate time to discuss and share ideas with their peers in class.
- The introduction more challenging, but interesting/relatable reading activities to encourage those students who lack motivation.
- 「受講者に発言の機会を与えていた」とのコメントにもあるように、なるべく、講義中に考えさせることを主眼にしたが、さらに工夫していきたい。
- パンデミックが終わったら、能動的学習の原理を効果的に適用することを検討する。
- 洋楽を使ったり、海外生活の失敗談をしたりして、憧れで終わるのではなく、海外への好奇心を持って実際に行動してほしい、という気持ちで話している。
- To encourage smoother discussion during speaking activities, I aim to get students to prepare their answers to pair-work questions.

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- Some students seemed to like that everything was explained in English so that they could develop their comprehension. Others did prefer to have some instructions in Japanese.
- 対面時と遠隔時の内容を明確に分けて運営できたという実感があり、受講生にとってもそれがよい形態だったようだ。
- 暫く授業をしてなかったせいか、声が小さいとの記述があった。以前は、大きすぎるといわれていたが、音量には注意する必要があると思った。
- マスクを着用していたため、声が聞こえにくいという意見があった。
- 背伸びせず基本から学んで、簡単に英語は使いこなせるということが伝えられたと思う。そのためには練習という努力も伴うことも。
- この2年間で、対面時に行ったほうが良い課題と、遠隔時に行ったほうが良い課題が分かりました。今後、対面授業中心に切り替わっても、授業時に行う課題と宿題として行う課題、という分け方で応用したいと思います。
- 「英語の全訳しかないため文法など新しいことは学べなかった。」との「コメントもあり、文法をさらに取り入れて行きたい。
- A better use of online tools to increase the variety and challenge of the class overall. Increased emphasis on reading activities done for pleasure outside of the classroom.
- While the overall response was good, a few students commented that they were like more time to complete tasks in class and revise their work. Of course, I will keep this in mind for future courses.
- 受講生の名前を可能な限り覚えたい。平等に指名できるように。

5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- 学生は対面授業を好む傾向が強かったので、このたびの授業では対面授業の効果をあげることができた。
- オンライン授業にも備えて、Manabaの掲示板やコンテンツ教材を充実させたが、なかなか既読にならない学生もあり、ダウンロードを催促することもしばしばあった。学生の熱意には温度差を感じた。
- 「zoom上で指名されて回答しなくてはいけなく、図書館などの声を発してはいけない場所での受講を制限された点。」との指摘から、これに対しては、前もって指導することが必要と感じた。
- 前期はすべて対面授業で実施したが、受講生がすべて前年度は遠隔授業であったために、大学生になった実感がないとこぼしていたのは、気の毒を感じた。
- Zoomで授業する際は学生側にもカメラを常に付けさせて、できるだけ発言させたほうが、学生の受講態度がよく、学生同士の関係も良好になると感じた。
- Based on my own personal surveys to the students, it seems there are a large number of students who would prefer to study online if given a choice.
- Zoomによるオンライン授業で、Zoomを付けるのみで、その場にいない事がある。(ブレイクアウトに参加していないこと、呼びかけに応じないため分かった)。
- 最初は遠隔授業をやっていましたが、学生の皆さんより、他の学生の発表のときの不審な行為とかが報告されました。(はっきりとそう言ったわけではありませんが。)音声が出ない、画面が映らないなど、発表のときにいろいろな問題が発生し、学生の皆さんが誠実に発表しているのか疑いたくなることがありました。そんなわけで途中から対面に切り替えました。
- Many students expressed a preference for making video rather than live presentations. While I think both skills are needed, video presenting seems a modern skill that should be developed.
- I hope to incorporate some online techniques into the classroom, particularly video recorded presentations.
- 授業の振り返りの内容を提出させて出席にする、その場でクイズ付のレスポンスに解答してもらう。
- お互いに学びあい成長していける十分な素養があるという実感を持って頑張れるように指導できたらと思う。
- In future terms I hope that this course returns to a normal teaching situation and I can spend more time working one on one with individual students.
- Use what I have learnt in this class to make improvements and form a more motivating environment for the students. Adjustment and improvement of chapter quizzes to more accurately measure the student's understanding and improvement.
- もっと双方向的学習とコンピューター学習手法を使用する。
- 受講者名簿の順番が専攻別に固まっていなかった。同じ専攻の者たちは語学のクラスで仲間になりやすい。グループワークもしやすいので、名簿順は専攻ごとにまとめていただければ幸いである。
- I have found Writing From Within to be a good overall book, although I would be interested in using texts with online practice and some audio and visual content, and more guidance for scoring students' work.
- I would like to keep explanations and examples as short as possible, so ensure there are no difficulties with understanding.

B-2. 鹿児島大学 IR コンソーシアム・アンケートについて

令和2（2020）年度 鹿児島大学 IR コンソーシアム・アンケート（問8のデータ）の結果から本学の英語教育の成果が確認できる。

英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から、学生が自己評価した結果を下記に示す。また、その結果をもとに、FD委員会に所属する英語教員が課題を抽出し、対策を提案した報告書も記載する。

評価する点	令和2（2020）年度1年生の入学時と現在（令和2（2020）年10月）における英語力（聞く力・読む力・会話力・表現力・書く力）の熟達度について、学生は入学時から調査実施時の10月まで、全ての能力において伸びていると実感しているようだ。その中で、特に「聞く力」及び「書く力」の伸び率が一番大きい。聞く力・読む力・表現力・書く力に置いて、現在のレベルがB1レベルと回答した学生の割合が、入学時より多い。学生は入学時において自分の英語力に自信がなかった可能性があるが、本学入学後に受講した共通教育の英語授業が良い成果をもたらしたという見方ができる。			
	※B1は英語学習者として中級レベル（習得しつつある者）を意味する。			
		1年生入学時	1年生現在（10月）	3年生現在（10月）
	聞く力（B1以上）	45%	54%	37%
	読む力（B1以上）	74%	77%	63%
	会話力（B1以上）	56%	61%	46%
	表現力（B1以上）	58%	66%	50%
書く力（B1以上）	55%	64%	42%	

課題と考える点 （3点以上）	<p>1. 令和2（2020）年度上級生（令和2（2020）年10月）における上級生の英語力（聞く力・読む力・会話力・表現力・書く力）の熟達度を1年生（令和2（2020）年10月現在）と比較すると下がっている傾向が見られる。「書く力」及び「聞く力」においてこの傾向が特に強い。上級生の英語レベルが下がった原因として挙げられるのは2年次、3年次に英語を学ぶ機会が少ないことが推測される。学部で英語教育を継続する必要がある。</p> <p>2. 特に上級生において、「聞く力」、「書く力」、「会話力」の水準が低い傾向が見受けられる。（A.1-A2.2）1年生（令和2（2020）年10月現在）の場合、「聞く力」の水準がもっとも低い。（A1-A2）英語力はグローバルな社会づくりに欠かせないツールであり、英語の授業のみならず全教科において重要視する必要がある。</p>
-------------------	---

	<p>3. 令和2(2020)年度の1年生と上級生(令和2(2020)年10月)における英語力(聞く力・読む力・会話力・表現力・書く力)の熟達度の結果は、あくまでも自己評価によるものであり、英語のレベルの正確な評価とは言えない。学生の自己評価だけではなく、様々な方法を用いて測る必要がある。</p>
--	---

<p>課題への 具体的な対応案</p>	<p>1. 上級生の英語力の低下について 3年次の学生に関しては、学部での英語教育がカギとなり、2年次から英語教育を継続する必要がある。既に理・工・農・水の4つの学部では2年次の共通教育英語授業(英語Ⅲ・Ⅳ、もしくは英語Ⅲのみ)を必須科目にしており、英語力の維持に効果的である。</p> <p>2. 1年生(令和2(2020)年10月現在)聞く力の低水準及び上級生の「聞く力」、「書く力」、「会話力」の低下について 英語のクラスサイズは38~43人であり、毎回学生全員に発表の機会を与えることが難しいが、共通教育センターでは学生が表現力・会話力を磨けるプログラムを提供している。LOL 外国語ラウンジやグローバル・ランゲージスペースでは、学生が毎週英語を練習することができる。また、P-SEGの海外研修を通して、英語力をレベルアップすることができる。さらに、授業外学習の一環として、リスニングや発音を練習するためのアプリも共通教育の英語教員が自主的に授業に取り入れている。学生にこれらのプログラムの情報提供をより効果的に促す必要がある。</p> <p>3. 英語力の熟達度の正確な測り方について 英語力の熟達度について、学生の自己評価だけで測るのではなく、例えば、外部試験の導入や授業の一環として行われている英語力テスト(G-TELP)でより明確に英語レベルを測ることができる。また、授業中にも英語力を測るテストをすることによって、英語力がどのぐらい伸びたかを把握できる。</p>
-------------------------	--

▶ 令和3(2021)年度 鹿児島大学 IR コンソーシアム・アンケートについて

続けて、令和3(2021)年度 鹿児島大学 IR コンソーシアム・アンケートの結果から見る本学英語教育の成果と課題について、以下、報告する。

評価する点	<p>【英語学習の実態】</p> <p>令和3(2021)年度1年生の入学時と直近調査時(令和3(2021)年10月)における英語力(聞く力・読む力・会話力・表現力・書く力)の熟達度について、学生は入学時から調査実施時の10月まで、全ての能力において伸びていると実感しているようだ。その中で、特に「聞く力」、「表現力」及び「書く力」の伸び率が大きい。「会話力」については3点ほど伸びているものの、入学時も1年生現在もB1レベルより低いと自己評価している学生が多い。しかし、国公立大学Gの水準よりどちらも2点高い。また、同じく生産的な能力である「表現力」および「書く力」が大きく伸びていることが評価できる。</p> <p>※B1は英語学習者として中級レベル(習得しつつある者)を意味する。</p>																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年生入学時</th> <th>1年生現在(10月)</th> <th>3年生現在(10月)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>聞く力(B1以上)</td> <td>48%</td> <td>57%</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>読む力(B1以上)</td> <td>77%</td> <td>82%</td> <td>69%</td> </tr> <tr> <td>会話力(B1以上)</td> <td>12%</td> <td>16%</td> <td>12%</td> </tr> <tr> <td>表現力(B1以上)</td> <td>63%</td> <td>71%</td> <td>53%</td> </tr> <tr> <td>書く力(B1以上)</td> <td>63%</td> <td>70%</td> <td>46%</td> </tr> </tbody> </table>		1年生入学時	1年生現在(10月)	3年生現在(10月)	聞く力(B1以上)	48%	57%	40%	読む力(B1以上)	77%	82%	69%	会話力(B1以上)	12%	16%	12%	表現力(B1以上)	63%	71%	53%	書く力(B1以上)	63%	70%
	1年生入学時	1年生現在(10月)	3年生現在(10月)																					
聞く力(B1以上)	48%	57%	40%																					
読む力(B1以上)	77%	82%	69%																					
会話力(B1以上)	12%	16%	12%																					
表現力(B1以上)	63%	71%	53%																					
書く力(B1以上)	63%	70%	46%																					

課題と考える点 (3点以上)	<ol style="list-style-type: none"> 令和3(2021)年度上級生(2021年10月)における上級生の英語力(聞く力・読む力・会話力・表現力・書く力)の熟達度を1年生(現在)と比較すると、すべて下がっている傾向が見られる。しかし、国公立大学Gとの比較から本学の3年生は全国の3年生と同等又は少し優れた英語スキルを有していることが分かる。2年次、3年次の英語教育は各学部で行われるため、それぞれの学部で伸ばしたい力を念頭に英語教育を継続する必要がある。 「会話力」については、1年生入学時から現在まで3点しか伸びないという結果だ。また上級生において、「会話力」の水準が1年生の入学時に等しい。より高い「会話力」を育てるためには全学生が発言の機会をもらえる少人数クラスによる英語教育が必要不可欠である。 令和3(2021)年度の1年生と上級生(2021年10月)における英語力(聞く力・読む力・会話力・表現力・書く力)の熟達度の結果は、あくまでも自己評価によるものであり、英語のレベルの正確な評価とは言えない。学生の自己評価だけではなく、様々な方法を用いて測る必要がある。
-------------------	---

<p>課題への 具体的な対応案</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上級生の英語力の低下について 3年次以降の英語教育に関しては、学部の判断がカギとなり、その必要性などについても決断をする必要がある。理・工・農・水の4つの学部では2年次の共通教育英語授業（英語Ⅲ・Ⅳ、もしくは英語Ⅲのみ）を必須科目にしており、英語力の維持に効果的であるが、全学部で英語に力を入れるかどうかの議論が難しい状況である。 2. 1年生（現在）の「会話力」の低水準及び上級生の英語力の低下について 推奨される外国語会話クラスの学生数（20人以下）と比較して、鹿児島大学における英語のクラスサイズは38～43人であり、毎回学生全員に発表の機会を与えることが難しい。しかし、共通教育センターでは学生が表現力・会話力を磨けるプログラムを複数提供している。LOL 外国語ラウンジ、グローバル・ランゲージスペースやP-SEGの海外研修を通して、英語力をレベルアップすることができる。 3. 英語力の熟達度の正確な測り方について 英語力の熟達度について、学生の自己評価だけで測るのではなく、例えば、外部試験の導入や授業の一環として行われている英語力テスト（G-TELP）で、より明確に英語レベルを定期的に測ることができる。これによって、学生も大学も英語力を可視化し、対策を講じることができる。
-------------------------	---

<p>昨年度挙げた 改善・対応策の 進捗状況</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各学部で単位の組み換えなどの改革が議論され、その中で英語教育の在り方についても議論されている。 2. 専任教員の数が減り、英語のクラスサイズについて議論することが難しい状況である。学生に会話力を授業外で延ばす方法などを指導する必要がある。 3. 教職員はLOL 外国語ラウンジ、グローバル・ランゲージスペースとP-SEGの海外研修の情報を提供し、参加を積極的に促している。
------------------------------------	---

<p>コロナウイルス 感染症対応に関 する本学・各部 局の取組との関 連に影響すると 思われる回答と その内容</p>	<p>昨年度と比べて「会話力」の自己評価が著しく低い結果となっている。これは授業中に発言を控えるように文科省から各教育機関への指導があったことも一因であろう。令和3（2021）年度は、オンラインなどの授業から対面授業に戻っても感染症対応で話す時間が「15分以内」という本学の規定があり、会話の授業に大きなダメージを与えたようだ。</p>
---	--

C. 外部試験について

はじめに外部試験利用の変遷について、簡単に触れておく。平成 20 (2008) 年度から利用してきた G-TELP (General Tests of English Language Proficiency) に代わって、平成 28 (2016) 年度から導入を開始した英語外部試験が大学向け GTEC であった。しかしながら、平成 31・令和元 (2019) 年度は、大学による資金調達の関係により実施が叶わず、その代わりとして導入の検討を開始したのが EF SET (Education First Standard English Test の略称) であった。

EF SET は、試験内容上、受験者のリスニングとリーディングの 2 つの技能が測定される点で、それまでの GTEC と同様であった。平成 31・令和元 (2019) 年度の前後期にわたり、試行やクラス分け (2 年次英語Ⅲ) を目的とする運用を通じて EF SET 利用に係る検討が重ねられた。その結果、令和 2 (2020) 年度からは 1 年生を対象に組織的に前期と後期の年 2 回の導入を図り、試験結果の 10% を英語クラスの成績に組み込むこと、ならびに令和 2 (2020) 年度後期試験の結果を翌年の英語 III のクラス分けにも利用すること、を決していた。

以下、EF SET と G-TELP それぞれの実施・結果について、運用年度の順に、簡潔に報告と考察を行う。

C-1. EF SET 実施・結果について 令和 2 (2020) 年度

令和 2 (2020) 年度は、前期に 1 回、後期に 1 回、以下の日程で英語外部試験の EF SET を実施した：

令和 2 (2020) 年度 EF SET の実施概要

	前期	後期
実施期間	6 月 15 日 (月) ~ 7 月 15 日 (水)	11 月 2 日 (月) ~ 11 月 29 日 (日)
受検対象者	1 年生	1 年生
実施形態	英語 I A・英語 I B・英語 I のうち 1 コマの授業時間に実施	英語 II A・英語 II B・英語 I のうち 1 コマの授業時間に実施
授業との関係	英語 I A・英語 I B・英語 I の最終成績のうち 10% を EF SET の成績で評価	英語 II A・英語 II B・英語 I の最終成績のうち 10% を EF SET の成績で評価

クラスごとに受検日を指定し、各学生は基本的には授業時間内に受検することとした。ただし、この年は新型コロナウイルスの感染が拡大し、全学で前期の授業は原則として遠隔授業、後期も対面授業又は遠隔授業という形態で実施された。そのため、EF SET についても、受検は学内ではなく、各学生の自宅からパソコンを使って実施した。自宅にパソコンがない場合は、事前連絡の上、学内のパソコン教室で受検できるようにした。受検環境の有無や不具合等も考慮し、各学生に割り当てられた受検期間は、授業日から 3 日以内 (休日を含む場合は 5 日以内) と余裕を持たせた。

前期、後期ともに、受検結果は Excel 形式の成績データとして、共通共育係を通して各授業の担当教員に送付した。全学及び学部別の総括資料については、EF SET に繰り返し作成と送付を依頼したが、結局、令和 3 (2021) 年 7 月になって令和 2 (2020) 年度後期分の送付があったのみであった。その内容に

についても、例えば学部別のデータが Foreign language、Business、Computer science 等、本学の実態と対応しておらず、再作成を重ねて依頼したが、それ以上のやり取りは進められなかった。EF SET は無料での実施ということもあって本学から強く対応を求めることもできず、課題の残る結果となった。

以下に、EF SET から送付された令和 2（2020）年度後期の総括資料を元に作成したデータを示す：

令和 2（2020）年度後期 EF SET の実施結果（全学）

受検者数：1866 名

Total Score (100)	Reading Score (100)	Listening Score (100)
38.95	38.54	38.84
CEFR: A2	CEFR: A2	CEFR: A2

EF SET は、リーディングが 25 分（100 点満点）、リスニングが 25 分（100 点満点）、計 50 分で実施するオンラインテストで、テスト内容は各受検者の試験中のパフォーマンス具合に応じて変わる。合計点（Total Score）は 2 つのセクションを合わせた平均点となり、100 点満点で示される。また、リーディングとリスニングの点数及び合計点は、CEFR(Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment)（外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）に対応する。当該期の全学平均点は、全ての項目で CEFR A2 レベルと判定された。

今後の英語外部試験の実施については、学生の英語力の推移を適切に検証できるよう、テスト内容や費用面だけでなく、全学や学部別のデータ、経年推移等、受検データの支援体制まで考慮して再検討する必要があると思われる。

C-2. G-TELP 実施・結果について 令和 3（2021）年度後期～令和 4（2022）年度

前項（C-1.）で述べたように、本学では令和 2（2020）年度から 1 年生を対象に EF SET という英語外部試験を導入した。令和 3（2021）年度も同じく 1 年生を対象に、授業担当者によって試験を対面（学内 PC 教室）または遠隔のどちらかを選択する形での試験実施計画を立てた。しかし、同年前期の受検期間中に試験結果のスコアが表示されない等の不具合が発生し、それが解消されない事態となった。結局、受検は中止となり、当該期は EF SET の試験を実施しないという対応が取られた。

この件を受けて、令和 3（2021）年後期は他の英語外部試験を利用することとなり、英語ミーティングで検討した。比較した 7 つの試験の中から、本学で平成 20（2008）年から紙媒体版での利用実績があった G-TELP のオンライン版（レベル 3）が採択された。

G-TELP は General Tests of English Language Proficiency の略で、テスト内容は実際の生活場面で使う英語力を測るものとなっている。日本では最も難易度の高いレベル 1 からレベル 4 までのテストが実施可能となっているが、本学ではこのうちレベル 3（英検準 2 級—2 級、TOEIC 400—600 程度）を採用した。テスト構成は、Grammar（文法）（20 分）、Listening（リスニング）（20 分）、Reading & Vocabulary（読解と語彙）（40 分）の 3 分野、試験時間は計 80 分で実施する。各学生はパソコンのブラウザから、

指定されたテストサイトにアクセスして受検する。

G-TELP 外部試験受検後のスコアレポートを通じて、学生は英語力の長所と弱点の概要を把握し、自主的に授業内・外で課題の克服に取り組むことを目的とする。バランスよく優秀な成績を収めた学生にはマスタリー認定証（文法・リスニング・リーディング&ボキャブラリーという3つのセクション全てにおいて正解率が75%以上）が授与でき、さらなる飛躍への励みになることを期待している。なお、3年次に外部試験の結果を専門英語の教員と共有し連携を図り、学生が大学卒業時に、それまで維持し積み重ねてきた英語力を自ら評価することを期待している。

C-2-1. 令和3（2021）年度後期 G-TELP 実施について

令和3年度（令和3（2021）年度）後期は、11月29日（月）～12月10日（金）の期間に1年次生（英語 IIA、共同獣医英語 I の履修者）の全学部を対象に実施した。学生は授業時間外に受検することとし、平日の朝8時から夜22時の間で受検開始できるようにした。試験結果は10点満点に換算したのち、2つの英語クラスの成績10%に組み込んだ。結果として、受検者総数は1854名（受検率92%）で、そのうちマスタリー取得者11名だった。基礎データについては下記の通りである。

2021年度後期 G-TELP 1年生基礎データ (Test type: Level 3)				
セクション	Grammar	Listening	Reading & Vocabulary	合計点
配点	100	100	100	300
平均	64.4	42.9	61.0	167.4
最小値	5	4	8	60
中央値	64	42	63	167
最大値	100	88	92	253

C-2-2. 令和4（2022）年度 G-TELP 実施について

令和4（2022）年度の G-TELP 実施は、1年次生（英語 IA、英語 IIA、英語 IB、英語 IIB、共同獣医英語 I の履修者）の全学部を対象に2回（1期・2期）実施した。試験結果は、前年度後期同様、結果を10点満点に換算したのち、2つの英語クラスの成績10%に組み込んだ。

さらに、本年度は学長裁量経費を頂くことができたため、2年次生（英語 III、英語IV履修者）にも2回（3期・4期）の G-TELP 受検を導入した。再履修者においても同様、履修授業内で本試験を実施した。ただし、3期（英語 III 履修者）の受検者^{*1}については、シラバス作成を教員に依頼する令和4（2022）年2月時点において、G-TELP 結果が英語 III の成績10%に組み込まれる可能性がある旨をお知らせしていなかったという事情もあり、G-TELP 受検については希望者のみの受検となった。4期（英語 IV 履修者、及び英語 III（再）履修者）の受検者^{*2}に関しては、G-TELP の結果が成績に組み込まれる旨を事前にお知らせできたため、全員に受検してもらい、英語 IV 及び英語 III の成績10%に組み込んだ。

試験日程は、1年次生は前期が6月13日（月）から6月24日（金）まで、2年次生（希望者）を6月13日（月）から6月24日（金）までとした。後期は、1年次2年次とも11月28日（月）から12月9日（金）の期間に実施した。

結果として、令和4（2022）年度1年次生前期（1期）の受検者総数は1868名（受検率92.3%）で、そのうちマスタリー取得者75名だった。1年次後期（2期）については、受検者総数1746名（受検率

94.9%) で、マスタリー取得者は 62 名だった。各々の基礎データについては下記の通りである。

2022年度前期 G-TELP 1年生基礎データ (Test type: Level 3)				
セクション	Grammar	Listening	Reading & Vocabulary	合計点
配点	100	100	100	300
平均	70.5	49.0	65.6	185.1
最小値	0	0	0	44
中央値	73	50	67	189
最大値	100	100	100	292

参考：英語 IA、英語 IB、英語 I（共同獣医）履修者が対象。

2022年度後期 G-TELP 1年生基礎データ (Test type: Level 3)				
セクション	Grammar	Listening	Reading & Vocabulary	合計点
配点	100	100	100	300
平均	67.2	49.1	67.1	183.5
最小値	0	0	4	51
中央値	68	50	71	189
最大値	100	100	100	284

参考：英語 IIA、英語 IIB、英語 I（共同獣医）履修者及び英語 III の再履修者が対象。

上記、基礎データの平均点に注目すると令和 4（2022）年度の 1 年生は、前期後期に亘り Grammar セクションが 3.3 点の減少が見受けられるが、他のセクションは Listening 0.1 点、Reading 1.5 点の上昇を示している。文法の指導方法の考察と共に、リスニング力と読解力の向上を観点とした指導方法が課題である。特にリスニング力は、他の 2 つセクションに比べて、平均点がかかなり低いことは重要視すべき点である。

令和 4（2022）年度 2 年次生の前期（3 期）における受検希望者総数は 219 名（受検率 18.1%）であった。受検したテストタイプの内訳としては Level 3 受検者 218 名、Level 2 受検者 1 名であった。Level 2 の受検者については、2 期でマスタリーを取得したため、難易度を上げたテストで受検した。なお、後期（4 期）の受検者総数は 758 名（受検率 75.3%）だった。各々の基礎データについては下記の通りである（ここでは Level 3 の結果のみ掲載）。

2022年度前期 G-TELP 2年生基礎データ (Test type: Level 3)				
セクション	Grammar	Listening	Reading & Vocabulary	合計点
配点	100	100	100	300
平均	62.6	44.7	59.1	166.4
最小値	18	0	4	68
中央値	64	46	63	171.5
最大値	100	88	100	271

参考：英語 III 履修者が対象。3 年次以降の英語 III 再履修者も含む。

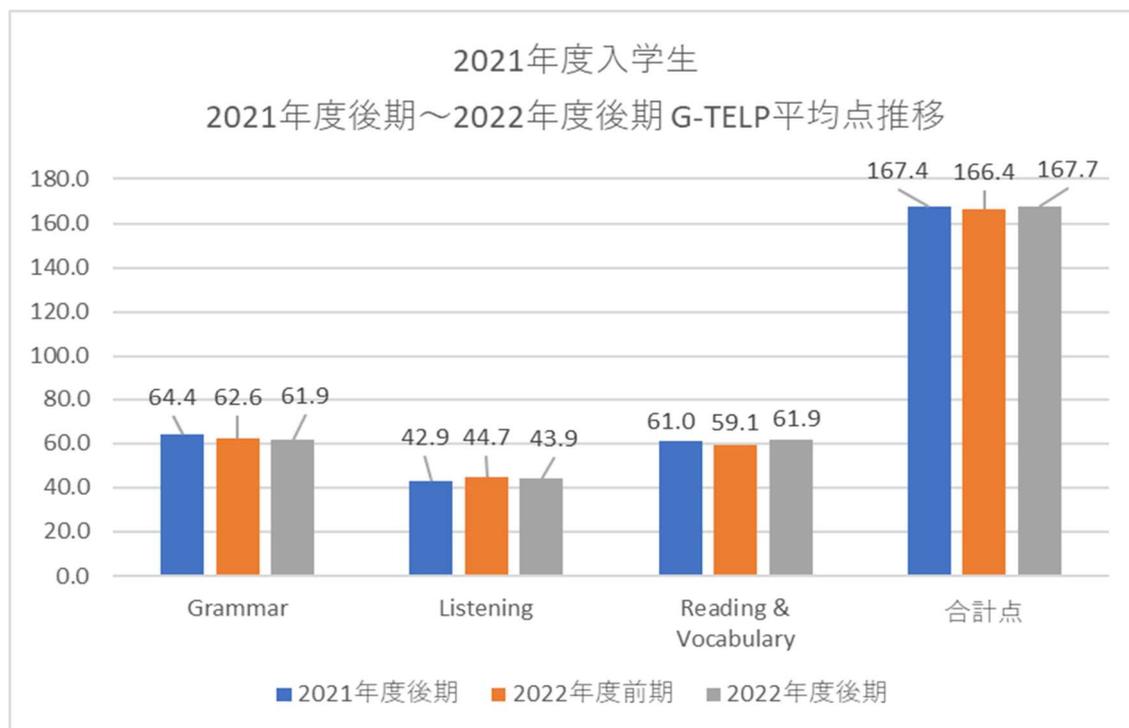
2022年度後期 G-TELP 2年生基礎データ (Test type: Level 3)				
セクション	Grammar	Listening	Reading & Vocabulary	合計点
配点	100	100	100	300
平均	61.9	43.9	61.9	167.7
最小値	0	8	4	30
中央値	64	42	67	172
最大値	100	100	96	283

参考：2年次生の英語Ⅳ、英語Ⅲ（再）履修者及び希望受検者が対象。IIA, IIBの再履修者も含む。

上記基礎データによると、令和4（2022）年度2年次生は前期から後期においてGrammar 0.7点の減少、Listeningは0.8点の減少、Readingは0.9点の上昇が見受けられた。カリキュラムの関係上、受検者数と受検者の母体が前期後期と異なるため比較するのは困難ではあるが、文法力と特にリスニング力の強化が課題であることは重要である。

令和4（2022）年度2年次生（令和3（2021）年度入学生）の令和3（2021）年度後期から令和4（2022）年度後期のG-TELP平均点の推移をまとめたものは下記のとおりである。

2022年度2年次生（2021年度入学生） 2021年度後期-2022後期 G-TELP平均点推移 (Test type : Level 3)				
実施時期	Grammar	Listening	Reading & Vocabulary	合計点
2021年度後期	64.4	42.9	61.0	167.4
2022年度前期	62.6	44.7	59.1	166.4
2022年度後期	61.9	43.9	61.9	167.7
平均	63.0	43.8	60.7	167.2



カリキュラムの関係上、3期・4期において受検学部や受検者の母体が異なることもあり、単純に比

較することは難しい面もあるが、1年次の頃と比較するとリスニング力は少し伸びているようだが、3つのセクションの中でも平均点が最も低いため、今後の課題である。また、文法力の低下についても今後の授業内容を考える上で、教員側が工夫する必要がある。

本試験の実施においては、特に2年次生の受検率を上げる工夫がさらに必要である。G-TELPとの連携もあるため、学生の受検の有無を確認するのに少々時間がかかるという課題があるが、G-TELP側と共に考察し、さらに各授業担当者の協力も頂きながら工夫を重ねる必要がある。

さらに本試験結果等のデータに基づき、教授側として全学部生の英語レベル及び課題となる事項等を把握し、今後の教育改善に活かしたい。今後も外部試験を利用しながら、分析を行い、経過観察することにより、よりよい英語教育を目指し、活用していく予定である。

※¹対象学部：法・医・歯学部以外の学部

※²対象学部：理・工・農学部

D. 外国語ラウンジの活動について

LOL (Language Out Loud) ラウンジを使用しての外国語教育促進への取り組みは、平成29(2017)年度後期より共通教育センター外国語教育部門によって企画され、平成30(2018)年度前期より本格的に始動した。その後パンデミックの影響により、令和2(2020)年度前期から令和4(2022)年度前期までの英語セッションはzoomを利用してオンラインで実施された。

コロナ禍における英語セッションについては、当初は開催をすべきか否かの議論が行われたが、講師との交渉を経てzoomによる開催にこぎつけた。前年度から用意していた広報ビデオ等を活用してmanabaやオンライン上で積極的に宣伝を行ったものの、学生がzoomを利用したオンラインでの学習に不慣れであったことなどが原因で、令和2(2020)年度前期の当初のセッションへの参加人数は前年度と比較して大幅に減少した。しかしながら、その後、学生がオンラインでの学習に慣れていくにつれ参加人数は徐々に増加し、最終的には多くの学生がセッションを通して隔離期間中の交流を行った(令和2(2020)年度累計参加人数353名)。

令和3(2021)年度は、セッションの開催回数を週3回から週2回へ変更して、引き続きzoomを利用したオンラインでのセッションを開催した。しかしながら、事務との連携不足によるmanabaでの広報の遅れやセッション回数の減少により、前年度と比較して参加人数が大幅に減少し(令和3(2021)年度累計人数172名)、令和4(2022)年度前期も参加人数が停滞する状況が続いた(令和4(2022)年度前期参加人数60名)。令和4(2022)年度後期からは、規制緩和に伴い対面での講義が増えたことも考慮して、LOLラウンジに体温計や空気清浄機を設置し、週に2回という回数は維持したまま、セッション中に飲食をしない、上限人数を設定するなど規則に則った形で、LOL英語セッションも対面での実施に移行した。この結果令和4(2022)年度後期の英語セッションへの参加人数は前期と比較して格段に増え、また、セッションへ何度も参加するリピーターの学生の数も前年度と比較して増加した(令和4(2022)年度後期参加人数121名)。

令和3(2021)年度のzoomによるセッション終了後と令和4(2022)年度の対面によるセッション終了後、参加者を対象にGoogle Formsを利用したオンラインアンケートを行った結果、令和3(2021)

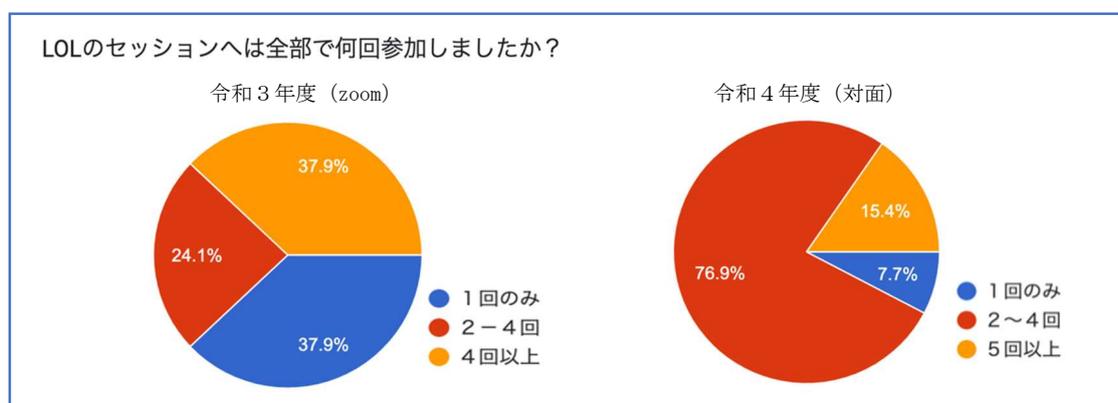
年度 29 名、令和 4（2022）年度 13 名の計 42 名から回答を得られた。本稿では、これらのアンケートの結果から、オンラインと対面でのセッションへの参加傾向や学生からの意見を分析し、次年度へ向けての改善点について考察する。

▶ アンケート結果

① 学生の参加回数と英語の技術や学習意欲の変化

まず、学生一人当たりが学期を通して何度セッションに参加したかを尋ねたところ、図 1 に見られるように、zoom セッションが行われた令和 3 年度後期は 1 回きりの参加者が多くみられたが、令和 4 年度後期の対面セッションに参加した学生の多くはリピーターとして繰り返しセッションに参加していることがわかった。

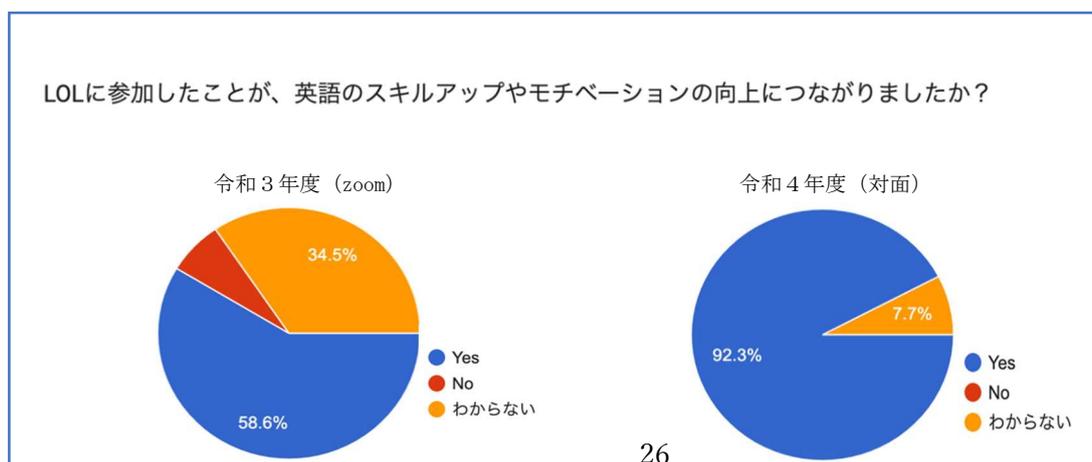
図 1 セッションへの参加回数



多くの学生がリピーターとして何度もセッションに参加していることから、セッションが好評だったことが窺えるが、令和 3 年度の zoom セッションに一度だけ参加した参加者からの意見としては、「話すタイミングが難しかった」「既に雰囲気が出来上がっていて（自分の知り合いや友達とではなく）自分一人で参加するのは難しかった」「相手の雰囲気がわからない」「コミュニケーションが取りづらかった」などが見られた。

次に、英語セッションへの参加が英語の技術や学習意欲の向上につながったかどうか尋ねたところ、以下のような回答を得た。

図 2 英語の技術や学習意欲の変化



LOLの参加が良い結果につながったと評価する声が多い中、令和3(2021)年度のzoomセッションへの参加者の中には、スキルアップやモチベーションの向上につながったかどうか「わからない」と回答した学生が多くみられた。この理由として、「一度しか参加しなかったので、英語が上手くなったかどうかはわからない」という答えが複数回答確認されたため、能力や学習意欲の向上を感じるためには、セッションへの継続しての参加が必要であると考えられる。「スキルアップやモチベーションの向上につながった」と答えたzoomセッション参加者の意見としては、「英会話への抵抗が減った」「英語をより好きになった」「対人能力が上がった」などがあり、特に「スピーキングというよりリスニング力の向上につながった」という回答が多く見られた。スピーキング力よりリスニング力が向上したと考えられる要因の一つとして、zoomで会話をする場合、同時に何名もが発話することができないため、一人一人の発話の時間が制限される代わりに、聞き取りの時間が多かったことが考えられる。

一方で、令和4(2022)年度の対面セッションへの参加者のほとんどが、LOLがスキルアップやモチベーションの向上につながったと答えている。理由として、「セッションに留学生が参加していて、(彼らの英語力が高いため、自分も)もっと英語を話せるようになりたいと思った」「相手のことをもっと知りたいと思った」「自分の英語力を実感したから」「楽しかったから」などという意見が寄せられた。回答の傾向から、教員との関わりというよりは、対面での学生同士のコミュニケーションの中で、相手の英語学習に対する姿勢に刺激を受けたり、相手のことを知りたい、気持ちを伝えたいというモチベーションが高まったことが見てとれる。

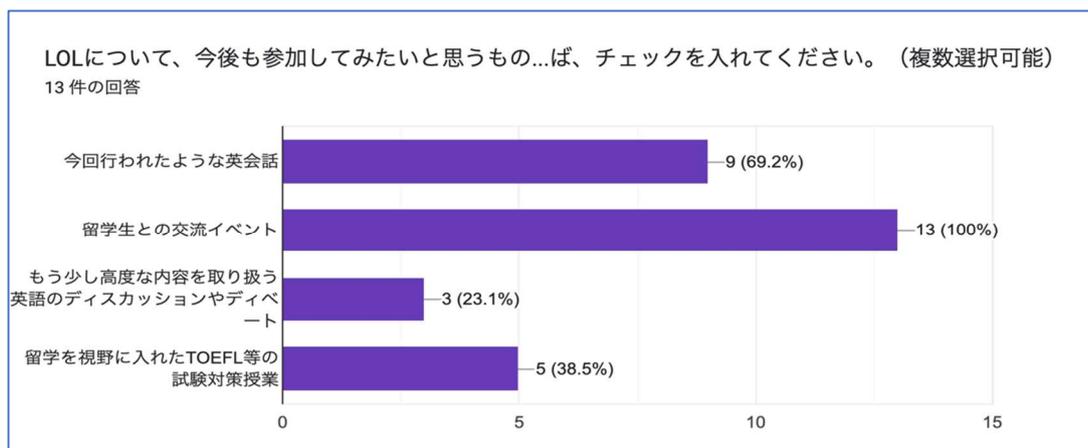
② コロナ禍におけるzoomセッションへの所見

令和3(2021)年度のzoomセッションに参加した学生たちからのフィードバックは概ね好評であり、学生たちは隔離期間中の学生間の交流の手段としてLOLを利用し、他学部の同じ興味を持つ学生とのコミュニケーションを楽しんだようである。Zoomセッションの良かった点と課題点を挙げてもらったところ、良かった点としては、「場所を選ばずどこからでも参加できる」「誰でも発言が届きやすい」などがあり、課題点としては、「人数が多いと話すタイミングに気を使ってしまう」「ジェスチャーなどが使いづらい」「同時に話すことができない」「直接会話したほうが話は弾むと思う」などの意見が寄せられた。「どこからでも参加できる」という利点は郡元キャンパス外に拠点を置く学生たちの参加を促したが、全体的な参加人数を比較すると規制緩和後の対面セッションへの参加人数がより多いため、英会話の練習に関しては、直接コミュニケーションをとることができる対面でのセッションを好む学生が多いようである。

③ 対面セッションの今後の展望

令和4(2022)年度の対面セッションに参加した学生を対象に、セッションが本格的に対面に切り替わった今後、参加してみたいセッションについて尋ねたところ、以下のような結果が得られた。

図3 今後参加してみたいセッション



令和4(2022)年度後期のセッションには特に留学生の参加が多く、彼らとの交流が楽しかったとコメントする学生も多かった為か、留学生との交流の場を設けてほしいという意見が最も多かった。また、セッションに参加する学生の中には留学を視野に入れている学生も多いため、留学へ向けたセッションへの需要もあるようである。

今後の展望

アンケートの結果から、次年度以降の運営においては、まずセッション内容の多様化やイベントの開催を通してより多くの学生にセッションへ継続して参加してもらうことが課題であると言える。特に、参加学生の多様なレベルやニーズに適応したセッションを提供していけるように、次年度はセッション数を増加して留学を視野に入れた学生へ向けてのTOEFL対策やディベートなどのセッションを導入することを検討している。必要に応じて、スピーチコンテストなどの定期イベントも企画していきたい。また、グローバルセンターとの連携のもと、学生たちが留学生と気軽に交流できる場をLOLからも提供することを検討している。ランゲージパートナーの紹介(外国語を勉強したい学生と留学生を繋げる取り組み)を行う場所、留学生主体の共同学習をサポートする場所などとしてLOLラウンジを提供したい。

このほかにも、学生の英語サークル等の活動の場としてもラウンジを提供し、英語が好きで、英語学習に興味がある学生が集まる場としてLOLをさらに活性化していきたい。今後も多くの学生が大学生活における英語学習の足がかりとなる場としてLOLラウンジを活用できるよう、継続してサポートを行いたい。

E. 外国語教育部門(既修語系)の運営について

本節では、まず、外国語教育部門(既修語系)の構成員、すなわち、いわゆる英語教員が、どのような役割分担のもとで、外国語教育部門(既修語系)の運営に関わっているのかについて述べる(E-1)。それを受けて、英語ミーティング(E-2)ならびにワークショップを中心とするFD活動を概観し(E-3)、最後に、英語教員によるこれまでの活動を記録してきた諸報告書について触れる(E-4)。

E-1. 英語教員の役割 令和2（2020）年度～令和4（2022）年度

授業以外の仕事でも共通教育センターの英語専任教員は多忙である。総合教育機構の会議、共通教育センター指定の会議のほか、毎月英語ミーティングを開催しており、この時に共通教育英語の運営について話し合っている。英語の事務的役割が多く、平成29（2017）年度から本格的に英語教員の役割分担を行っている。令和2（2020）年度から令和4（2022）年度の英語教員の役割分担は以下のとおりである。

令和2（2020）年度英語教員の役割

役割分担

進行役	藏本、内尾
開講コマ調整	ネバラ、ブレイジア、原
教育（カリキュラムなど）	金岡、ハムチュック
LOL 外国語ラウンジ	ブレイジア、日高、ギュレメトヴ
外部試験	原、村山
教科書選定	原、藏本
補習教育・修学支援	村山
FD	内尾、ハムチュック
報告書	高橋
留学生のプレイスメント	ネバラ、トレマーコ
ICT 活用教育	ブレイジア
記録係・書記	日高、ギュレメトヴ
「英語教育の成果」など	全員（リーダー：ネバラ、金岡、原）

その他：

- * 入試作成・採点
- * 海外引率
- * 学部での授業
- * プラットフォームでの授業
- * 教養教育での授業
- * 初年次セミナーの授業
- * 学生個人の外国語指導
- * 学内・センター内の委員

令和3（2021）年度英語教員の役割

役割分担

進行役	藏本、内尾
開講コマ調整	原、ネバラ、ブレイジア
教育（カリキュラムなど）	金岡、ハムチュック

LOL 外国語ラウンジ	ブレイジア、日高、ギュレメトヴ
外部試験	村山、高橋
教科書選定	藏本、原
補習教育・修学支援	村山
FD	内尾、ハムチュック
留学生のプレイスメント	ネバラ、トレマーコ
報告書	
ICT 活用教育	ブレイジア
記録係・書記	日高、ギュレメトヴ

その他：

- | | |
|-------------|---------------|
| *入試作成・採点 | *海外引率 |
| *学部での授業 | *プラットフォームでの授業 |
| *教養教育での授業 | *初年次セミナーの授業 |
| *学生個人の外国語指導 | *学内・センター内の委員 |

令和 4（2022）年度英語教員の役割

役割分担

進行役	内尾、金岡
開講コマ調整	原、ブレイジア、金岡
教育（カリキュラムなど）	金岡、ハムチュック
LOL 外国語ラウンジ	日高、ギュレメトヴ（オブザーバー：ブレイジア）
外部試験	高橋、藏本（オブザーバー：村山）
教科書選定	日高、原
補習教育・修学支援	高橋
FD	ハムチュック、村山
留学生のプレイスメント	原、ブレイジア
報告書	原、高橋、金岡
ICT 活用教育	ブレイジア
記録係・書記	ギュレメトヴ、村山

その他：

- | | |
|-------------|---------------|
| *入試作成・採点 | *海外引率 |
| *学部での授業 | *プラットフォームでの授業 |
| *教養教育での授業 | *初年次セミナーの授業 |
| *学生個人の外国語指導 | *学内・センター内の委員 |

教員全員が原則として運営に貢献している。開講コマ調整、LOL 外国語ラウンジ、外部試験、教科書選定、FD などの大変忙しい役割もある。また、英語ミーティングに必ず議事要旨を付けている。英語教育の報告書も数年に一度の割合で、全員参加で作成している。これらの他、入試作成・採点、海外引率、学部での授業、プラットフォームでの授業、教養教育や初年次教育での授業、全学・センター内の委員にも携わっている。

上記のことからおわりいただけと思うが、毎月の英語ミーティングや毎年のような英語教育に関する報告書が英語教員間の連携を表している。共同型の教育課程運営により、責任を持ってカリキュラムなどの管理や点検を行っている。各クラスの難易度（レベル）、内容（共通シラバス）、テキスト（推奨教科書リスト）、成績評価基準（成績分布に関する申し合わせ）などが標準化されている。1～2年次のカリキュラムも体系化されて、英語教育に関することなら全てをエビデンスと実践で検証しながら、理想的な教育に向かって進んでいる。教員活動のエビデンスの一例として、令和元（2019）年に大学図書館のレポジトリに登録された72ページに及ぶ「鹿児島大学 平成29（2017）－平成30（2018）年度 共通教育英語教育活動報告書II」が保管されている。この報告書は大学改革支援・学位授与機構の教育の内部質保証に関するガイドラインに基づき、約一年間をかけて英語プログラムの分析・評価を行い、英語教育改善に努力した、という証拠になる。英語教育の教員は自主的かつ協動的にプログラムの改善・改良ができるということである。

令和4（2022）年度英語教員の役割

役割分担

進行役	内尾先生、金岡先生
開講コマ調整	原先生、ブレイジア先生、金岡先生
教育（カリキュラムなど）	金岡先生、ハムチュック先生
LOL 外国語ラウンジ	日高先生、ギュレメトヴ先生（オブザーバー：ブレイジア先生）
外部試験	高橋先生、藏本先生（オブザーバー：村山先生）
教科書選定	日高先生、原先生
補習教育・修学支援	高橋先生
FD	ハムチュック先生、村山先生
留学生のプレイスメント	原先生、ブレイジア先生

報告書	原先生、高橋先生、金岡先生
ICT 活用教育	ブレイジア先生
記録係・書記	ギュレメトヴ先生、村山先生

その他：

- *入試作成・採点 *海外引率
- *学部での授業 *プラットフォームでの授業
- *教養教育での授業 *初年次セミナーの授業
- *学生個人の外国語指導 *学内・センター内の委員

E-2. 英語ミーティングについて

本報告書が扱う英語ミーティングは、令和 2（2020）年度から令和 4（2022）年度までの 3 年間が対象となる。令和 2（2020）年度は 8 回、令和 3（2021）年度は 10 回の英語ミーティングが開催された。令和 4（2022）年度は、本報告書の発行年度にあたり、編集作業の都合上、第 6 回会合までとする。以下、順に、報告する。

<令和 2（2020）年度>

▶ 令和 2（2020）年度 英語ミーティング 第 1 回会合 議事録

日時：令和 2（2020）年 6 月 18 日（木）13:00～14:00

共通教育棟 2 号館 212 教室

出席者：ネバラ先生、金岡先生、高橋先生、原先生、ブレイジア先生、ハムチュック先生、村山先生、内尾先生、ギュレメトヴ先生、日高先生

[審議事項]

1. 令和 2（2020）年度の外国語教育部門の仕事内容について
資料を確認する。

2. 令和 2（2020）年度の前期試験について

基本的に対面ではない試験かレポートを行い、対面での試験を希望する場合は各自その詳細を申請する。対面ではない試験を行う場合は、学生のインターネットの環境を考慮して受験可能な時間を伸ばすなど対応する。

3. 令和 2（2020）年度の FD 会について

開催時期としては 9 月下旬を予定しているが、必要に応じて変更する。

（教科書のオーダーは 8 月下旬を目処としている。）

午前中にブレイジア先生、ハムチュック先生、金岡先生に 20 分ほどアイデアをシェアしてもらい、10 分ほど質疑応答を行う。

4. その他

[報告]

1. 令和2(2020)年度の留学生クラス分けについて

EF SETを行った。

2. 令和2(2020)年度のLOLラウンジについて

Zoomで開催中。仏語火曜四限、中国語水曜午後、独語6月開始、韓国語はなし。

3. 「英語教育の成果について」報告書について

気になる点がある場合は26日までにネバラ先生へ連絡する。

4. 前期EF SETの実施について

受験できなかった学生には事務から連絡が行く。結果は事務で計算をして8月上旬に各担当教員へ送付される予定である。

5. 部門経費について

資料を確認する。

6. その他

遠隔授業になり課題の量が増えているため、学生の心理的な負担を考慮して、課題や試験の実施方法に配慮する。心配な学生がいる場合は事務へ連絡する。

次回の英語ミーティング予定：7月16日(木)13:00～14:00(場所は別途お知らせします)

▶ 令和2(2020)年度 英語ミーティング 第2回会合 議事録

日時：令和2(2020)年7月16日(木)13:00～13:55

via zoom

出席者：ネバラ先生、高橋先生、原先生、ブレイジア先生、村山先生、ハムチュック先生、内尾先生、藏本先生、ギュレメトヴ先生、日高先生

[審議事項]

1. 令和2(2020)年度の英語FD会について

実施方法：Zoom: manaba で事前に特設ページを作成し、資料等に事前にアクセス可能にする。

使用言語：発表者に任せる(日英バイリンガル)。

参加者確認方法：事前登録制とする(当日参加も可)。

・当日参加の人も、事後に参加登録をすれば、manaba上の資料や無料のEnglish central デモアカウント設定が利用できるようにする。

2. 後期の非常勤講師欠員について

一名欠員(2コマ)。

・LOLで英会話を担当している先生に頼めないか。→できれば県内在住で修士号を持っている先生にお願いしたい。

3. その他

後期の授業を対面で行うか否かについては、決定次第報告する。

・夏休み明けすぐの学生の参加については不安がある。

- ・遠隔授業になった場合、授業の内容もこれに応じて調整する。

[報告]

1. 前期 EF SET の実施について

- ・未受験の人にはリマインドを送付する。

2. その他

- ・前期の LOL への参加者は、平均 7 人。
- ・オープンキャンパス中（8月24から28日まで4日間）は、zoom で LOL を行う。
- ・ヘッドセット等必要な人は予算で購入可能なので、連絡する。
- ・ALC の提供する E-learning の案内を教員会議室に置いておくので、必要に応じて確認する（デモアカウントがあるものもある）。
- ・入国することができない外国在住の学生に対しては、引き続き遠隔授業を予定しており、後期が対面授業になった場合は学生に不利益のないように特別に措置する。

次回の英語ミーティング予定：

9月17日（木）13:00～14:00（場所は別途お知らせします）

and/or 10月15日（木）13:00～14:00（場所は別途お知らせします）

▶令和2（2020）年度英語ミーティング 第3回会合 議事録

日時：令和2（2020）年8月19日（水）13:00～13:45

via zoom

参加者：ネバラ先生、高橋先生、原先生、ブレイジア先生、村山先生、ハムチュック先生、藏本先生、ギュレメトヴ先生、日高先生

[審議事項]

1. 令和2（2020）年度の英語 FD 会について

- 予定通り開催、終了後に Google Form 上でアンケートあり。

2. 後期授業（スクーリング）について

- 原則後期に二度対面で授業を行う。会話等を避けて、講義形式をとる。
- 第4タームのスクーリングについては現在保留中（9月中旬までに決定）。

3. その他

- FD の終わりに遠隔授業に関して意見交換会を行う。

[報告]

1. 後期シラバスの記入とテキストオーダー

2. オープンキャンパス、L O L

次回の英語ミーティング予定：

9月17日（木）13:00～14:00（場所は別途お知らせします）

and/or 10月15日（木）13:00～14:00（場所は別途お知らせします）

▶ 令和2(2020)年度 英語ミーティング 第4回会合 議事録

日時：令和2(2020)年9月24日(木) 13:00~14:30

via Zoom

Attendees: ネバラ先生、高橋先生、原先生、村山先生、トレマール先生、ブレイジア先生、
ハムチュック先生、内尾先生、蔵本先生、ギュレメトヴ先生、日高先生

[審議事項]

1. 履修案内 外部試験単位認定の見直し

1) 実用英語技能検定(英検) → 英検 CBT と英検 S-CBT を加える

Two new versions of the EIKEN test will be accepted. Students can be informed that any of the three EIKEN versions will be acceptable from next school year.

2) 英検の遡及措置 (Retroactively accepting EIKEN CBT and S-CBT scores)

The decision whether to retroactively accept scores is still pending.

3) Cambridge Linguaskill の導入検討における準備

Instructors who are interested in taking the test themselves or in using the Speaking segment in their class should contact Hara 先生 by September 28.

2. 後期授業についての注意点

Due to increased numbers of students formally complaining about unclear grading criteria please make sure you explain in detail how are you going to grade them.

You can use your face-to-face class or the online tools we have: via Zoom or Manaba, or all of the above.

3. 今後の英語教育について

A new 機構/Center Committee or WG will be set up to supervise developments.

Everyone is encouraged to submit ideas and suggestions about improving the curriculum.

Ideas should be submitted to Hara 先生 and more discussion will happen during our next meeting.

4. その他

[報告]

1. 後期スクーリング対応 (Autumn semester schooling) (see handout)

Please inform the students about the classroom where your face-to-face classes will be held.

2. 後期末入国留学生への対応 (Foreign students outside Japan) (see handout)

3. 後期 EF SET スケジュール (仮) (EF SET Schedule (provisional)) (see handout)

The EFSET test will be held remotely. Be sure to remind the students.

4. 外国語教育部門第1回教員ワークショップ (講演会) に関する報告

(Foreign Language Education Workshop Report)

41 participants from many departments, part-time and full-time teachers included. Overall high evaluation from participants in the survey.

5. The LOL lounge is starting again from October 12. Please encourage your students to join!

次回の英語ミーティング予定：10月15日（木）13:00～14:00（場所は別途お知らせします）

▶ 令和2（2020）年度 英語ミーティング 第5回会合 議事録

日時：令和2（2020）年10月22日（木）13:00～15:00 via zoom

出席者：ネバラ先生、金岡先生、高橋先生、原先生、ブレイジア先生、ハムチュック先生、内尾先生、
藏本先生、ギュレメトヴ先生、日高先生（トレマーコ先生授業により欠席）

[審議事項]

1. 今後の英語教育について

○ ドラフトを基に今後の英語教育について検討し、適宜修正を加えた。

2. その他

○ 特になし

[報告]

1. その他

○ 特になし

次回の英語ミーティング予定：

11月12日 or 26日（木）13:00～14:00

※11月19日（木）は11月16日（月）の振替授業

▶ 令和2（2020）年度 英語ミーティング 第6回会合 議事録

日時：令和2（2020）年12月17日（木）13:00～14:10 via zoom

出席者：ネバラ先生、金岡先生、高橋先生、原先生、ブレイジア先生、村山先生、
ハムチュック先生、内尾先生、藏本先生、ギュレメトヴ先生、日高先生

[審議事項]

1. 2021年度の推奨テキストリストについて（藏本・原）

○ 12月中に推奨テキストを追加し、1月中に担当者が確認作業を行う。

○ オンライン授業を念頭において教科書の選定を行い、付属教材としてオンライン上で使用可能な教材があるかを確認する。

○ 授業は50%が対面授業になると考えられるが、どのような体制で授業を行うかは検討中である。

2. 令和3年度授業運営経費の必要予定経費について（原）

○ 購入が必要な物品等があれば原先生に連絡する。

3. 授業改善メモと令和元年度大学 IR コンソーシアム学生調査結果の評価・分析について（内尾）

○ 授業改善については個人でメモを提出するのではなく部門で話し合うことを提案する。

4. その他

[報告]

1. 2021年度の英語科目について（専任の持ちコマ数と非常勤講師の新規採用について）（原）

- 資料を確認する。
- 2. 令和2年度授業運営経費の残額について（原）
 - 購入が必要な物品等があれば原先生に連絡する。
- 3. その他
 - 未入国の学生について確認する。
 - zoom ミーティングへの出席は確認が可能である。
 - プラットフォームの授業について希望があれば提出する。

次回の英語ミーティング予定：1月21日（木）13:00～14:00

▶ 令和2（2020）年度 英語ミーティング 第7回会合 議事録

日時：令和3（2021）年1月21日（木）13:00～14:07 via zoom

出席者：ネバラ先生、高橋先生、原先生、ブレイジア先生、村山先生、ハムチュック先生、内尾先生、
藏本先生、ギュレメトヴ先生、日高先生

[審議事項]

1. 令和3（2021）年度の推奨テキストリストの進捗について（藏本・原）

- 24日までに割り当てられた科目の推奨テキストを確認する（教員会議室）。
- Xreading, English Central について、基本的に Xreading は IA と IIA、English Central は IIB の授業で使用。使用の際は、必要に応じて、①前期、後期でクラスを引き継ぐ担当教員（例：IA と IIA の担当教員）、また、②当該学期で同クラスを担当する教員（例：IIA と IIB の担当教員）と連絡をとり、課題の内容や分量について確認する。

2. 令和3（2021）年度の授業実施形態について（原）

- 基本的に対面授業を推奨するが、個人の選択による。

3. その他

- 特になし

[報告]

1. EF SET の結果送付について（原）

- 確認する。
- 2. フランス語二村先生について（原）
 - 希望者から 500 円ずつ集めてお礼を贈る。

3. その他

- LOL の予算（英語、イタリア語）を原先生へ連絡する。
- 単位を落とした学生の数が例年より多いようだが、来期も再履修クラスは編成せず、現状通り（単位を落とした学生は一つ下のクラスに入れる）で対応する。

次回の英語ミーティング予定：3月15日（木）13:00～14:00

▶ 令和2（2020）年度 英語ミーティング 第8回会合 議事録

日時：令和3（2021）年3月17日（水）13:55～15:20

via zoom

出席者：ネバラ先生、金岡先生、高橋先生、原先生、ブレイジア先生、トレマーコ先生、村山先生、
藏本先生、ギュレメトヴ先生、日高先生

[審議事項]

1. 令和3（2021）年度の仕事内容と英語教員の役割について（原）

○ 資料を参照する。

2. 令和3（2021）年度のFD会（内尾・ハムチュック）

○ 時期は7月下旬から8月初旬、2時間程度行う。提案内容は以下である。

① 共通教育英語の現状と展望、アンケート調査、成績評価、シラバスチェックなどについて、非常勤の先生を含めて全体での共通理解を図り、その方針について議論を行う。

② 事前アンケートを踏まえて、プレゼンテーションやディスカッションを行う。

③ FDとは別に非常勤教員対象の説明会を開催するかどうかは、内尾先生、ハムチュック先生、原先生で検討をしていただく。

3. 次回の英語ミーティングについて

○ 目下4月3週の木曜日を予定している。

4. その他

○ 入試担当ローテーションについて、入試作成委員を5名から4名に、下見の担当を4名から3名に変更する。

○ EF SETのクラスと日程については決定次第周知する。

○ 未入国の留学生への対応について、該当の学生担当の先生へは後ほど判明した時点で連絡する。

[報告]

1. その他

次回の英語ミーティング予定：4月15日（木）13:00～14:00？

<令和3（2021）年度>

▶ 令和3（2021）年度 英語ミーティング 第1回会合 議事録

日時：令和3（2021）年4月15日（木）13:00～13:40

via Zoom

出席者：ネバラ先生、金岡先生、高橋先生、原先生、ブレイジア先生、ハムチュック先生、村山先生、
内尾先生、藏本先生、ギュレメトヴ先生

[審議事項]

1. 令和3（2021）年度の仕事内容と英語教員の役割について（原）

○ 資料を参照する。前回から変更なし。

2. 令和3（2021）年度のFD会について（内尾・ハムチュック）

○ 資料を参照する。

3. その他

○ LOL ラウンジは5月から始まる予定。

[報告]

1. その他

* シラバスのチェック・修正について

英語1A, 1B, IIIのシラバスチェックが必要。

シラバスを印刷し、各教員のメールアドレスに配る。PDFでも可能。

4月26日に再チェックを行う。

* 前期授業評価アンケートは14回週目から実施することが可能になる。

* 未入国の留学生について

遠隔・ハイブリッド授業に入る。生協・共通教育係とやり取り中。

次回の英語ミーティング予定：5月20日(木) 13:00~14:00

▶ 令和3(2021)年度 英語ミーティング 第2回会合 議事録

日時：令和3(2021)年7月15日(木) 13:00~14:25

via zoom

出席者：ネバラ先生、高橋先生、原先生、ブレイジア先生、村山先生、ハムチュック先生、内尾先生、
藏本先生、ギュレメトヴ先生、日高先生

欠席者：金岡先生、トレマーコ先生

[審議事項]

1. 令和3(2021)年度のFD会について(内尾先生・ハムチュック先生)

○ 資料を確認する。

2. 第4期中期計画案について(原先生・ネバラ先生)

○ SDGs

英語IA, IIAの内容としてSDGsに関連する内容を取り扱う。教科書選定時に、SDGsに関連する内容を含むものを選択する。

○ クラスサイズ

可能であれば、クラスサイズを縮小し教育効果を高めたいことに言及し、専任または任期付きの教員の増員を目指したい。(リーディングクラスの四技能へのシフト等によるクラスサイズの縮小等については英語ミーティング内で検討する。)

○ 評価方法、到達目標の設定について

学位の質保証に関連して、目標設定はするが、中期計画への記述に関しては見送る。今後英語ミーティング内で検討する。

○ テクノロジーの使用に関する文言

自律学習の支援のために利用できるツール(Xreading, English Central, Criterion, Plagiarismチェックのためのツール等)の導入に言及する。

○ 教員の引き継ぎについて

コマ数、スケジュール、非常勤の人数等を考慮すると、教員が同期のAとBのクラスを担当する、または、前期、後期で継続して同じクラスを担当することは現状では困難である。この件に関しては中期

計画への記述は見送り、英語ミーティング内で検討する。

3. その他

- 学位の質保証に関する報告資料を確認する。

[報告]

1. その他

- EF SET について

原先生のクラスでの試験結果をもとに来週以降での実施または中止を決定する。

中止の場合は、vクラス8点、pクラス6点、hクラス4点を一律付与し、学生には、昨年の同クラスのテスト結果をもとに平均点より高い点数を一律付与する旨を通知する。

- 後期の授業形態について

今月中に授業形態に関するアンケートを実施し必要に応じて教室を割り振る。

次回の英語ミーティング予定：8月19日（木）13:00～14:00

▶ 令和3（2021）年度 英語ミーティング 第3回会合 議事録

日時：令和3（2021）年8月19日（木）13:00～14:40 via zoom

出席者：金岡先生、高橋先生、ネバラ先生、トレマーコ先生、ブレイジア先生、原先生、村山先生、内尾先生、藏本先生、ギュレメトヴ先生、日高先生

[審議事項]

1. 令和3（2021）年度のFD会について（内尾・ハムチュック）

- 8月23日（月）10:00～12:30

2. 令和4（2022）年度以降のLOL（英語）について（原・日高）

- 次年度週二回にして様子を見る。

3. 後期 EF SET の実施に関して（原・高橋・村山）

- 第一候補はG-TELP、第二候補はVELCとして見積もりを取る。

4. 共通教育センター学位の質保証検討課題について（原・ネバラ）

○ 共通教育の英語目標については、ネバラ先生の案を基に今後も継続して審議する。追加・修正案があれば原先生にメールする。

- 授業科目名について継続して審議する。

5. その他

[報告]

1. 第4期中期計画案について（原・ネバラ）

○ こちらから提出した案を基に、理事と出口先生が書き換えたものを今後もう一度審議する。

○ テクノロジーの導入に関しては、全員の導入は難しいため文言を慎重に審議する。

2. 後期授業と未入国留学生対応について

○ 後期の科目を履修する学生は基本的に遠隔授業のクラスに割り振るが、ハイブリッド授業を行うク

ラスに割り振られる可能性もある。

3. その他

○ English Central を使う人はブレイジア先生に連絡する。

次回の英語ミーティング予定： 9月16日（木）13:00～14:00?

▶ 令和3（2021）年度 英語ミーティング 第4回会合 議事録

日時：令和3（2021）年9月16日（木）13:00～14:50 via zoom

出席者：原先生、ネバラ先生、高橋先生、トレマーコ先生、ブレイジア先生、村山先生、
ハムチュック先生、内尾先生、藏本先生、ギュレメトヴ先生、日高先生

[審議事項]

1. 令和3（2021）年度のFD会のアンケート結果について（内尾・ハムチュック）

○ グループディスカッションが好評だった。

○ 今後のFDの実施方法については改善の必要がある。

2. 後期外部試験の実施について（原・高橋・村山）

○ 後期の外部試験はGTLPを実施する（10月センター会議で審議し、承認をもらう）。

○ 来年度も継続して実施する場合は、事前に予算を申請する必要がある。

3. 共通教育センター学位の質保証検討課題について（原・ネバラ）

○ 継続して審議する。原先生から送付される資料を確認し、各自で案を書き込み返信する。

4. 第4期中期計画について（原・ネバラ）

○ 資料を確認して問題点を共有した。

○ SDGsについては、基本的にリーディングとリスニングの授業で取り扱う（必要に応じてライティングやスピーキングの授業で取り入れることもできる）。

○ アクティブラーニングの内容（反転授業等）に関しては、継続して審議する。

※学位の質保証検討課題、第四期中期計画について継続して議論をする上で、シラバスの内容の検討も並行して行う。

5. その他

[報告]

1. 後期授業と未入国留学生対応について

○ 教科書については学生と確認後に、学生課が立て替えて購入する。

○ 第一回目の授業で教科書の購入について確認をする。

2. その他

○ 入試の下見について

○ 授業改善メモについて

○ 後期第一週、第二週に学内で遠隔授業を受講する予定の学生は届け出る。

次回の英語ミーティング予定： 10月21日（木）13:00～

▶ 令和3（2021）年度 英語ミーティング 第5回会合 議事録

日時：令和3（2021）年10月21日（木）13:00～15:00

via zoom

出席者：ネバラ先生、金岡先生、高橋先生、原先生、ブレイジア先生、村山先生、ハムチュック先生、内尾先生、藏本先生、ギュレメトヴ先生、日高先生（トレマーコ先生は授業のため欠席）

[審議事項]

1. G-TELPについて（村山）

- 授業時間外で学生が実施期間中に受験する。
- 受験期間とその後の予備期間も含めて全員の受験を年内に終了する（11月29日～12月10日（予備日は12月24日まで）の期間中を予定）。
- 期間中は土日を含めて朝8時から夜22時の間に受験開始ができるようにする。
- 不具合があった際の対応や受験にあたってのマニュアルの作成については引き続き検討する。
- 不正行為等への対応については、今回の試験結果を参考に次回試験を行う際に検討する。

2. 共通教育センター学位の質保証検討課題について（原・ネバラ）

- CEFR-Jの記述を基に、基盤ルーブリックにある記述を取り入れながら、鹿児島大学の実情に合わせたルーブリックを作成する。
- カリキュラム点検検討事項A(3)については原先生とネバラ先生に、検討事項B到達目標の設定については、高橋先生と村山先生に案をまとめていただいて、11月5日までに原先生に提出していただく。その後、メールで意見を集約し、提出する。

3. その他

- フランス ボルドー・モンテーニュ大学との学術交流協定に関して
 - ・ 的場先生に打診する。
 - ・ 業務を遂行する上でフランス語がどの程度必要かを確認する。
 - ・ 必要に応じて英語教員から代表者を選出することもありうる。

[報告]

1. 第四期中期計画について（原・ネバラ）

- 英語Ⅲの授業で反転授業を行うが、どの程度行うのかは今後検討する。

2. その他

次回の英語ミーティング予定：11月18日（木）13:00～14:00（予定）

▶ 令和3（2021）年度 英語ミーティング 第6回会合 議事録

日時：令和3（2021）年11月18日（木）13:00～13:35

via Zoom

出席者：ネバラ先生、高橋先生、原先生、村山先生、ハムチュック先生、内尾先生、藏本先生、ギュレメトヴ先生（トレマーコ先生は授業のため欠席）

欠席者：金岡先生、ブレイジア先生、日高先生

[審議事項]

1. 令和4（2022）年度の推奨テキストリストについて（藏本・原）

- 担当役割分担、作業の流れについては添付の資料を参照する。

○おすすめテキストがありましたら12月中に会議室の棚に入れる。

* There will likely be an increase in SDG-related textbooks.

SDGs are recommended for English IA and IIA classes and optional for the rest.

2. 令和4年度授業運営経費の必要予定経費について(原)

○授業に必要な物がありましたら来年1月まで原先生に連絡をする。

* You can also inform the office (Higashiyashiki-san) directly about problems with the classroom equipment.

3. その他

○来年から英語ミーティングを対面にするか。(A lot depends on what will happen with the pandemic but it is something to think about!)

[報告]

1. G-TELPの進捗状況

○11月15日(月)の小路口さんから頂いたメール通り行う。

マニュアルを参照する。

* Kojuguchi-san will also be using Manaba to inform the students about the test.

2. その他

次回の英語ミーティング予定: 12月16日(木) 13:00~14:00(予定)

(Hara-sensei will be in contact about any changes to the plan.)

▶ 令和3(2021)年度英語ミーティング 第7回会合 議事録

日時: 令和3(2021)年12月16日(木) 13:00~13:55 via zoom

出席者: ネバラ先生、金岡先生、高橋先生、原先生、村山先生、ブレイジア先生、ハムチュック先生、内尾先生、藏本先生、ギュレメトヴ先生、日高先生

[審議事項]

1. 授業アンケート改善案について(内尾)

○ 授業アンケートをmanabaの各教員のコース上に設定する。

○ 教員の名前は質問項目に入れなくても良い。

○ 英語の教員だけではなく全科目この形式でも問題ないと思われる(間違いを防ぐことができるので)。

→ 森先生に授業アンケートをmanabaの各教員のコース上に設定することができるか相談した上で、FD委員会で検討する。

2. その他

[報告]

1. G-TELPの実施状況

○ 80%が受験済み。

2. その他

○ 次年度のコマ調整について

(将来的に水産学部と農学部の授業を同じ時刻に実施できるようにする)

- 推奨テキストの確認作業について
- ミーティングを対面で実施するか検討中
- 次年度の授業の実施方法は検討中
- L O L は今週末終了予定

次回の英語ミーティング予定： 1月20日(木) 13:00~14:00 (予定)

▶ 令和3(2021)年度 英語ミーティング 第8回会合 議事録

日時：令和4(2022)年1月20日(木) 13:00~14:06 via zoom

出席者：ネバラ先生、金岡先生、高橋先生、原先生、ブレイジア先生、村山先生、ハムチュック先生、
内尾先生、藏本先生、ギュレメトヴ先生、日高先生 (トレマーコ先生は講義のため欠席)

[審議事項]

1. 授業アンケート改善案について (内尾)

- 決定事項をFD委員会で審議して、審議が通ったら木原さんに連絡する。

2. 令和4(2022)年度英語外部試験について (村山・高橋)

- 資料を確認する。不具合等はブラウザの問題以外は特になかった。
- 次年度は継続してG-TELPを実施する(単価750円)。本年度と同様に授業時間外で年2回実施する。
- テストの実施に関する連絡は最初から教員も確認できるようにする。
- 外部試験の受験料を2月に学長裁量経費で申請する。通らなかった場合はセンター長裁量経費で申請する。

3. 英語非常勤講師について (原)

- 非常勤講師を採用するための基準を明確化する。
- 新人の非常勤講師には支援を提供する。

4. その他

[報告]

1. G-TELPの実施報告

2. その他

- 教科書選定について

次回の英語ミーティング予定： 2月17日(木) 13:00~14:00 (予定)

▶ 令和3(2021)年度 英語ミーティング 第9回会合 議事録

日時：令和4(2022)年2月17日(木) 13:00~13:40 via zoom

参加者：ネバラ先生、金岡先生、高橋先生、原先生、トレマーコ先生、ブレイジア先生、村山先生、
ハムチュック先生、内尾先生、藏本先生、ギュレメトヴ先生、日高先生

[審議事項]

1. 英語非常勤講師について (原)

- 資料を確認する。
- 2. 令和4年度への引継ぎ（外国語教育部門）について（原）
 - 資料を確認する。
 - 専任教員の雇用については資料には掲載しないが折に触れて提案する。
 - 何かあれば今週中に原先生に連絡する。
- 3. その他
 - ボルドー・モンテーニュ大学（フランス）との学術交流協定（大学間交流協定）更新における共通教育センターからの対応者は原先生が担当する。

[報告]

- 1. その他
 - 役割分担については次回ミーティングで提案する。
- 次回の英語ミーティング予定：3月17日（木）13:00～14:00（予定）

▶ **令和3（2021）年度 英語ミーティング 第10回会合 議事録**

日時：令和4（2022）年3月17日（木）13:00～13:40 via zoom

出席者：原先生、高橋先生、ハムチュック先生、内尾先生、藏本先生、ギュレメトヴ先生、
ブレイジア先生、日高先生

欠席者：村山先生、ネバラ先生、金岡先生（年休）、トレマーコ先生

[審議事項]

- 1. 令和4（2022）年度の仕事内容と英語教員の役割について（原）
 - * 「令和4（2022）年度英語教員の役割」の資料を確認する。
- 2. その他

[報告]

- 1. その他
 - * 入国できない新1年生と新2年生の留学生が数人いる予定である。
 - * Reading Explorerの教科書の入荷が遅れる可能性がある。
- 次回の英語ミーティング予定：4月21日（木）13:00～14:00（予定）

<令和4（2022）年度> ※ 編集上の都合により、第6回までとする。

▶ **令和4（2022）年度 英語ミーティング 第1回会合 議事録**

日時：令和4（2022）年4月21日（木）13:00～14:10 216教室（共通教育棟2号館1階）

参加者：原先生、高橋先生、金岡先生、ブレイジア先生、村山先生、内尾先生、藏本先生、
ギュレメトヴ先生、日高先生

欠席者：ハムチュック先生（研究調査）

[審議事項]

1. 令和4（2022）年度の仕事内容と英語教員の役割について（原）
 - 資料の通りの役割で進めることを確認した。
 - 各担当者を定期的に入れ替えることも考えた方が良いという意見があった。
2. 令和4（2022）年度のFD会について（ハムチュック・村山）
 - 実施時期等について確認があった。まずはこの計画書案に沿って、7月までを目処に準備を整えることが確認された。
 - 情報をきちんと共有しながら進めて欲しいという意見があった。
3. 英語部会 入試担当ローテーションについて（原）
 - 資料の内容を確認した。
 - 2024年度のネイティブスピーカーの担当者は現在未定のため、今後検討する必要がある。
4. その他
 - なし。

[報告]

1. その他
 - LOLの予算措置について、資料（報①）の説明があった。
 - 推奨テキストは今後、数を絞り込むことを検討することになった。SDG関連の整備も充実させる。

次回の英語ミーティング予定：

5月19日（木）13:00～14:00 くらい（216教室）（共通教育棟2号館1階） 予定

▶ 令和4（2022）年度 英語ミーティング 第2回会合 議事録

日時：令和4（2022）年5月19日（木）13:00～14:00

216教室（共通教育棟2号館1階）

参加者：原先生、高橋先生、金岡先生、ブレイジア先生、村山先生、内尾先生、藏本先生、
ギュレメトヴ先生、日高先生

欠席者：ハムチュック先生

[審議事項]

1. 令和3（2021）年度のFD会について（ハムチュック・村山）
 - ハムチュック先生が、発表者候補の数名の先生に打診中とのこと。
 - 日程は去年同様、8月下旬（8/22-26）の10:00-12:00 くらいの日程で、対面での実施可能性を検討することになった。
 - 今日の段階では、上記の時間で行うこと、謝金の上限等を考えると、発表者は2名がよいのではないかと、ということになった。
 - ワークショップの案内文書を作成し、次回のミーティングでその内容を確認することになった。
 - 参加できなかった人のために、当日、発表を録画することを検討する。
 - 謝金について、職階等による違いの有無を事務を確認する。（→会議終了後に村山が確認済み。職階によって違いあり。謝金についても、予算の予定を上回るようなら早めに相談することで別予算からなど調整可とのこと。）

2. 令和4(2022)年度前期英語外部試験(G-TELP)実施について(高橋、藏本、村山)

- 試験実施日程についてはG-TELPに確認したところ、前回の外国語部門会議で提示された日程で実施できることになった。
- 1年生の受験対象クラスでは、すべての受験生にLevel 3を使用することになった。
- 昨年の1年後期にLevel 3でMasteryを取得した学生は、今回は学生の判断でLevel 2を受験できることとなった。
- 英語IIIの試験結果の扱いについては、各担当教員の判断に任せるのではなく、成績評価には使用しない、と全学で統一することになった。
- 5/25に、G-TELP事務局担当者と英語部門、事務担当者が打ち合わせを行うことになった。

3. その他

- 次回以降のミーティングも対面形式での実施を目指すことになった。

[報告]

1. その他

LOLの周知を、manabaの英語クラスのコースニュース等で再度行う。

次回の英語ミーティング予定：6月16日(木)13:00~14:00(予定)

(216教室)(共通教育棟2号館1階)

▶ 令和4(2022)年度 英語ミーティング 第3回会合 議事録

日時：令和4(2022)年6月16日(木)13:00~14:36

216教室(共通教育棟2号館1階)

参加者：原先生、高橋先生、金岡先生、ブレイジア先生、村山先生、内尾先生、藏本先生、
ギュレメトヴ先生、日高先生

欠席者：ハムチュック先生

[審議事項]

1. 令和4(2022)年度のFD会について(村山)

- 資料を元に今月中に内容を整理し、対面形式で進めていくこととなった。
- 現状を踏まえて、日高先生が準備運営に参加してくださることとなった。

2. 令和4(2022)年度前期英語外部試験(G-TELP)実施について(高橋、藏本、村山)

- 2年生の希望は現在21名との報告があった。
- 共通教育英語科目の授業がない学部2学生について、法文学部等の英語担当教員に受検の促しを依頼していくこととなった。また、受検期間の延長も検討していくこととなった。
- 今年度後期の英語IVについては、成績の10%として組み込む方向で準備を進めていくこととなった。

3. その他

シラバスチェックについて

- 長年、推奨テキストを使わないなど、ルールに従っていない教員が存在する、との指摘があった。毎年チェックしても改善されないままだとすれば、シラバスチェックをする意味はないのではないか、という意見があった。当該教員について情報収集し、周知の徹底をはかることとなった。

授業時の出欠について

- 出欠の扱いについて適切な対応を考えて欲しいという声があり、意見をまとめて上の会議での審議を目指していくことになった。

[報告]

1. 授業評価アンケートについて（ハムチュック）（代理：原）

今年度前期のアンケートの実施方法については最初の質問のみ新規で追加され、資料のとおりですすめていくこととなった。

2. その他

次回の英語ミーティング予定：7月21日（木）13:00～14:00（予定）

216 教室（共通教育棟 2 号館 1 階）

▶ 令和 4（2022）年度 英語ミーティング 第 4 回会合 議事録

日時：令和 4（2022）年 7 月 21 日（木）13:00～14:40

216 教室（共通教育棟 2 号館 1 階）

参加者：原先生、高橋先生、金岡先生、ブレイジア先生、村山先生、ハムチュック先生、内尾先生、
藏本先生、ギュレメトヴ先生

欠席者：日高先生

司会：金岡先生

[審議事項]

1. 令和 4（2022）年度の FD 会について（ハムチュック、日高、村山）

- 資料に基づいて準備を進めることになった。
- プログラム最後の挨拶を、金岡先生がご担当くださることになった。
- 事後アンケートはオンラインで実施する。
- 出席フォームから申し込みが必要。

2. コロナ等による学生の欠席対応に関する対応（原、ブレイジア）

- 感染症と関わる学生には、「鹿児島大学新型コロナウイルス感染症対応フロー」（配布資料）に沿って対応するよう指導する：

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/information/2022/03/post-1514.html>

- 相談は共通教育係の堤さんに連絡する。

3. その他

- なし。

[報告]

1. 令和 4（2022）年度前期英語外部試験（G-TELP）実施について（高橋、藏本、村山）

- 基礎データについて説明があった。
- 後期の英語 IV の成績に G-TELP を組み込むことを確認した。
- G-TELP の他大学でのデータ活用例を情報収集する。

- manaba に掲載した練習問題の不具合は、夏休みに修正する。
- 2. 今後の外国語教育部門（英語）の体制について（原）
- 原先生が副センター長に、外国語教育部門の副部門長が2名体制となり、ブレイジア先生が就かれた。
- 3. その他

次回の英語ミーティング予定：9月15日（木）13:00～14:00（予定）

▶ **令和4（2022）年度 英語ミーティング 第5回会合 議事録**

日時：令和4（2022）年10月20日（木）13:00～13:50 LOL 教室（共通教育棟2号館1階）

参加者：原先生、高橋先生、金岡先生、ブレイジア先生、村山先生、内尾先生、藏本先生、日高先生

オンライン参加者：ハムチュック先生

欠席：ギュレメトヴ先生

[審議事項]

1. 外国語教育部門（既習外国語）の報告書作成について（原）
 - 執筆の分担等についてはこれから検討する。次回の英語ミーティング以降に決定し、準備を進める。年度内の提出を目指す。
 - その他、以下の報告書作成について言及があった：
 - ・G-TELP 関連の報告書：年度内の提出を目指す。
 - ・自己点検報告書：SDGs を中心に原先生が中心となって作成する。年度内あるいは次年度初めの提出を予定する。
2. その他
なし

[報告]

1. 令和4（2022）年度のFD会アンケート（村山、ハムチュック）
 - 配布資料に沿って説明があった。
2. 令和4（2022）年度後期英語外部試験（G-TELP）実施について（高橋、藏本、村山）
 - 配布資料に沿って説明があった。
 - manaba のG-TELP の練習問題の不具合は修正された。
3. 外国語教育部門（英語）の人事について（原）
 - 助教1名の採用準備が進められていると報告があった。
4. その他
 - LOL への参加を呼びかけて欲しいと報告があった。

次回の英語ミーティング予定：11月17日（木）13:00～14:00（必要がある場合に開催）

12月15日（木）13:00～14:00（予定）

▶ **令和4（2022）年度 英語ミーティング 第6回会合 議事録**

日時：令和4（2022）年12月15日（木）13:00～14:00

LOL 教室（共通教育棟1号館1階）

参加者：原先生、高橋先生、金岡先生、ブレイジア先生、村山先生、ハムチュック先生、内尾先生、藏本先生、ギュレメトヴ先生、日高先生

司会：金岡先生

[審議事項]

1. 外国語教育部門（既習外国語）の報告書作成について（原、金岡、高橋）
 - 2023年2月末までに完成するよう、配布資料のとおり作業を進める。
2. その他
 - 無し。

[報告]

1. 令和4（2022）年度後期英語外部試験（G-TELP）実施について（高橋、藏本、村山）
 - 配布資料に沿って、これまでの実施状況の説明があった。10%換算の成績データは、各先生宛に授業の15回目までに送付予定。
2. 外国語教育部門（英語）の人事について（高橋、原、ブレイジア）
 - 配布資料に沿って説明があった。
3. 2023年度推奨テキストリスト割り振りについて（日高、原）
 - テキストの追加希望があれば、年内に教員会議室に持参する。1月に、チェック分担の割り振りを行う。
4. 令和5年度授業運営経費の必要予定経費調べについて（原）
 - 経費利用の希望があれば、来年1月末までを目安に原先生に連絡する。
5. その他
 - 各先生宛にメールボックス経由で送付した、次年度の授業担当時間割案を確認する。次年度は、改組に伴う農学部科目担当者の一部変更と、英語IV（再）の新規設定が報告された。

次の英語ミーティング予定：2023年1月19日（木）13:00～14:00（予定）

E-3. FD活動（ワークショップなど）について

本小節では、ワークショップを中心とするFD活動を概観する。令和2（2020）年度から令和4（2022）年度までの、各第1回共通教育センター外国語教育部門教員ワークショップについて報告し（E-3-1, E-3-2, E-3-3）、終わりにワークショップの意義と今後の課題に触れる（E-3-4）。

E-3-1. 令和2（2020）年度第1回共通教育センター外国語教育部門教員ワークショップ

第1回目は令和2（2020）年8月24日（月）10:00～12:00に、「英語の遠隔授業について考える」と題し、Zoomによる講演会を開催した。参加対象者は、外国語教育に関わっている全教員（専任教員、非常勤講師）またその他、本ワークショップに関心のある方とした。

FDワークショップは平成31年度より外国語教育部門（既修外国語・初修外国語）として行うことになり、既修外国語（英語）は本年度第1回目を担当した。本ワークショップでは、講師に共通教育センターの教員3名（金岡先生、ハムチュック先生、ブレイジア先生）及びEnglish Central社の小室さんをお招きし、2020年8月24日（月）10:00～12:30に、「授業で使用するITツールとその活用方法」

と題し、郡元キャンパス共通教育棟（1号館3階134 / 136号室）及びZoomによる遠隔会議にて開催した。参加対象者は、外国語教育に関わっている全教員（専任教員、非常勤講師）またその他、本ワークショップに関心のある方とした。

ワークショップでは、今年のコロナ禍の影響で遠隔授業を行わざるを得ない状況に直面した外国語教師は、どのようなツールを活用し、どのような教育方法を用いて授業を行ったかを参加者と共有し、議論することを目的とした。ワークショップは3つのプレゼンテーションとそれに関する質疑応答時間及び全体での議論時間に分かれ行われた。

当日の参加人数は合計41名（共通教育センター：30名、法文学部2名、地域医療支援センター1名、グローバルセンター2名、その他6名 / 専任講師：26名、非常勤講師：13名、その他2名）だった。事後アンケート（回答者26名）によると、73%（19名）が「ワークショップは有意義だったと非常に思う」、15%（4名）が「少しそう思う」と回答した。ワークショップの感想として次のようなコメントがあった：

- 「コロナ禍での遠隔授業は学期中の具体的情報交換がむずかしく、前期終了直後にこのような3人の先生方の取り組みをうかがえたことは大変良い機会でした。後期授業に向けて多くの考えるヒントをいただきました。」
- 「英語教育の先生方が、どのように情報共有をされているのか垣間見れたことが、実は一番勉強になりました。語学科目であればシェアできるツールや情報の示し方があるなど、参考になりました。」
- 「遠隔授業による英語教育の問題点や利点、また可能性を多面的に知ることができました。」
- 「英語のOnlineでのツールについて学ぶことができ、副教材としてのオプションが増えました。」

今後のワークショップの提案としては、教授法や評価方法についてもっと実例を出して深く学びたいという意見及びZoomなどを利用して遠隔で行われることによってより参加しやすかったなどという意見が寄せられた。また意見交換会をこれからもっと頻繁に行われると良いという提案もあった。



【令和2（2020）年度第1回共通教育センター外国語教育部門 教員ワークショップの様子】

E-3-2. 令和3（2021）年度第1回共通教育センター外国語教育部門教員ワークショップ

FDワークショップは平成31（2019）年度より外国語教育部門（既修外国語・初修外国語）として行うことになり、既修外国語（英語）は令和3（2021）年度第1回目を担当した。本ワークショップでは、

講師に共通教育センターの教員 3 名（金岡先生、ハムチュック先生、原先生）お招きし、令和 3（2021）年 8 月 23 日（月） 10:00～12:30 に、「新ポリシーの紹介及びオンライン教授体験の共有」と題し、Zoom による遠隔会議にて開催した。参加対象者は、外国語教育に関わっている全教員（専任教員、非常勤講師）またその他、本ワークショップに関心のある方とした。

ワークショップの第一部では、共通教育センターの教員 3 名（金岡先生、ハムチュック先生、原先生）が成績評価、シラバスチェック及び評価アンケートに関する共通教育センターの新しい政策を紹介し共有した。ワークショップの第二部では教員がグループに分かれ、オンライン授業の問題点、そして成功体験について自由に意見交換を行なった。

当日の参加人数は合計 30 名（共通教育センター：30 名、法文学部 2 名、地域医療支援センター 1 名、グローバルセンター 2 名、その他 6 名 / 専任講師：26 名、非常勤講師：13 名、その他 2 名）だった。事後アンケート（回答者 26 名）によると、73%（19 名）が「ワークショップは有意義だったと非常に思う」、15%（4 名）が「少しそう思う」と回答した。ワークショップの感想として次のようなコメントがあった：

- 「コロナ禍での遠隔授業は学期中の具体的情報交換がむずかしく、前期終了直後にこのような 3 人の先生方の取り組みをうかがえたことは大変良い機会でした。後期授業に向けて多くの考えるヒントをいただきました。」
- 「英語教育の先生方が、どのように情報共有をされているのか垣間見れたことが、実は一番勉強になりました。語学科目であればシェアできるツールや情報の示し方があるなど、参考になりました。」
- 「遠隔授業による英語教育の問題点や利点、また可能性を多面的に知ることができました。」
- 「英語の Online でのツールについて学ぶことができ、副教材としてのオプションが増えました。」

外国語教育部門（既修語）では、本 FD 教員ワークショップをとおして、より充実した共通教育の英語授業を目指し、シラバスの見直しを重ねながら学生のニーズに応えられるように授業内容の改善の糸口を模索してきた。今回のトピックは現在教員全員が直面している遠隔で授業を行うというトピックを取り上げたため、非常に興味のある話題であり、情報交換への意欲も高かった。今後の課題としては、ワークショップの開催方法（対面より遠隔の方が参加しやすかったようです）。また、より多くの教員が参加できるように使用言語を日本語・英語の両方にする方法も考慮しなければならない。今後も、本ワークショップをとおして授業改善に役立つ学びの場を設けたい。

E-3-3. 令和 4（2022）年度第 1 回共通教育センター外国語教育部門教員ワークショップ

令和 4（2022）年度の共通教育センター外国語教育部門教員ワークショップを、以下の日程で実施した：

令和 4（2022）年度第 1 回共通教育センター外国語教育部門教員ワークショップの概要

日時	令和 4（2022）年 8 月 22 日（月）10:00～12:20
----	------------------------------------

実施方法	対面(共通教育棟一号館 123 教室)及び Zoom
対象	専任教員、非常勤講師、その他ワークショップの内容に興味がある方
使用言語	英語
テーマ	外国語教育におけるイノベーション
発表内容	発表 1: ビデオによる生徒プレゼンテーションの作成 (アシュリー・ディビット・ストックデイル氏) (本学非常勤講師) 発表 2: 鹿児島大学共同獣医学部 2 年生を対象とした ESP 授業における技術活用の試み(ヘンリー・スミス氏) (本学共同獣医学部特任准教授)

両氏とも、様々なオンラインツールの紹介とともに、実際の授業でそれらをどのように活用しているのか、具体例を示しながら講演いただいた。話題の中心となったツールは、ストックデイル氏の発表ではビデオディスカッションプラットフォームの Flip について、スミス氏の発表ではオンラインで閲覧、編集、共有ができるホワイトボードツールの Miro についてであった。また、両氏の発表の後、関連する内容についてのグループディスカッション、全員でのディスカッションが設けられ、活発な意見交換がなされた。

当日の参加人数は合計 18 名(共通教育センター10 名、その他の学内専任 3 名、非常勤講師 5 名)だった。事後アンケート(回答者 12 名)(本項末にデータあり)によると、今回のワークショップは有意義だったかという質問に対して、10 名が「非常にそう思う」、2 名が「少しそう思う」と回答し、内容は肯定的に受けとめられたようだ。自由記述のコメントを見ると、新たな知識を得られたこと、それが具体例を通して紹介されていたことが特によかったようだ。今後のワークショップで取り上げて欲しいテーマを尋ねた質問では、今回同様のテクノロジー関連を挙げる声が多くあった。また、ワークショップに関する意見や提案として、当日の時間配分はもう少し工夫できるのでは、という声が複数あった。これらのアンケート結果は、今後のワークショップ運営の検討時にも参考にしたい。

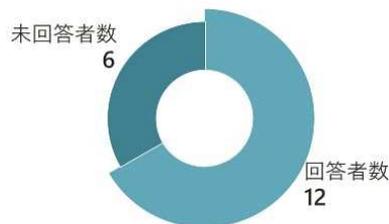
今回のワークショップを総括すると、参加者は外国語教育で利用可能なオンラインツールについての知識が深まり、またその具体例を通して活用場面のイメージを理解でき、今後の授業運営のヒントを考える良い機会となったと言える。

令和 4 (2022) 年度 第 1 回共通教育センター外国語教育部門教員ワークショップ事後アンケートのまとめ その 1 選択回答欄

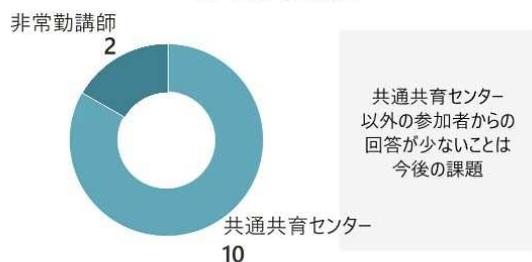
1. ワークショップ参加者の内訳



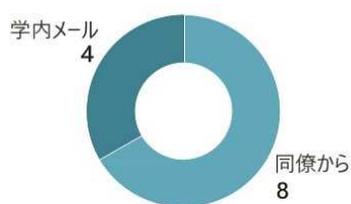
2. アンケートへの回答者・未回答者数



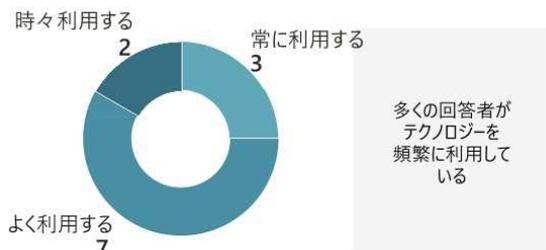
3. 回答者の属性



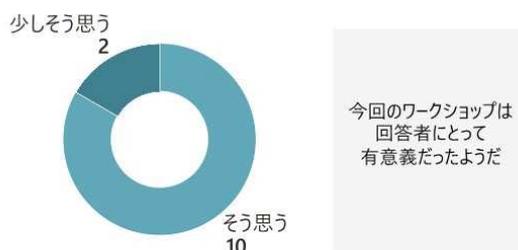
4. 本ワークショップ情報の入手先



5. 学期を通して、授業内でどの程度テクノロジーを利用しますか?



6. 本日のワークショップは有意義でしたか?



令和4（2022）年度 第1回共通教育センター外国語教育部門教員ワークショップ事後アンケートのまとめ その2 自由記述欄

1. 本日のワークショップは有意義でしたか?
 非常にそう思う (n=10) 少しそう思う (n=2)
 ↓
 具体的な理由を書いてください。

回答のまとめ：
 特に、新たな知識を得られたこと、それが具体例を通して紹介されていたことがよかったようだ。

- I could find out new ways of teaching with technology.
- Entertaining and informative, with useful tips.
- I could listen to different viewpoints and share some of my hard-earned experiences.
- 実際の授業で活用されている具体的な内容を含めて、テクノロジーのツールを紹介くださった点が良かったです。またその背後にある先生がたのよりよい教育への熱意を感じることができました。自身も励まされました。
- The presentations inspired me a lot.
- Inspired by Mr. Stockdale's step-by-step instruction and leading students to do presentations. I found Mr. Smith's Miro to be very useful for group discussions. Thinking of trying it in next semester's classes.
- どちらの発表も具体例が豊富で、教室で各ツールがどのように使われているかを想像しやすかった。
- 知らなかったテクノロジーとその具体的な使用例を紹介してもらえたから。
- I was able to find out about how other teachers use technology in their classes and that was interesting but I do not know if I could use them myself.

2. 現在どのようなテクノロジー・ツール・アプリ等を利用していますか。また、今後どのようなテクノロジー・ツール・アプリ等を利用したいと考えていますか。

回答のまとめ：

回答者の多くが Zoom と Manaba を利用している。その他、様々な名前が挙がっており、参考にしたい。

- Zoom and English Central currently. Would like to use pollev.
- I use Flip for student presentations.
- Zoom, PollEverywhere, Miro, GIPHY.com, CyberLink, PowerDirector.
- Zoom, Youtube, PowerPoint, Manaba, and cloud storage for student videos. Video editing software and whiteboard software.
- マナバとズームです。遠隔の際は両方を組み合わせて授業を行いますが、今回ご紹介のあったツールは初めてでした。当然のことながら、ある程度、熟知したうえでの利用が求められることを改めて感じましたので、今のところはマナバとズームの利活用の方法をよりよく拡げていけたらと思います。
- I've used Kahoot!, Quizlet, Flipgrid, Xreading and English Central in my class. For the next semester, I'm thinking of using Respon for they added the new function called "room", and it seems useful. I'm also interested in using ETS's Criterion online writing evaluation system if the budget allows...
- Manaba (breakout, poll, clicker, questionnaire), Miro

- 現在、Manaba と Zoom を使用しています。今後は、プレゼンテーションで Flip などの導入ができればと思います。
- I have used Flipgrid, Quizlet, Kahoot, English Central and X-Reading.

3. 今後、本ワークショップで取り上げてほしいテーマは何かありますか。

回答のまとめ：

テクノロジー関連を挙げる声が多くあった。その他のコメントも参考にしたい。

- Similar to today.
- The same topic. Every year we have new technologies, so I think it's nice to have this topic and share how we use those technologies to make teaching fun and more practical.
- Maybe sharing what kind of textbooks teachers use and how are they used in classes. More ideas on dealing with translation apps would be helpful, too.
- Manaba や Zoom をどのように活用すると効果的な英語の授業ができるのか。
- I think more workshops on teaching methods and discussions about them would be good. Interacting with other English teachers is always good.

4. その他、本ワークショップに関する意見や提案等がございましたらお書きください。

回答のまとめ：

当日の時間配分はもう少し工夫できるのでは、という声が複数あった。その他のコメントも参考にしたい。

- 最後の Group & 全体セッションの時間を短くしてもよいと思う。
- I thought today's workshop was very useful. The teachers were active and helpful. Face-to-face workshops are best to have but this hybrid one was a great success!
- 日程は採点やお盆が終わって一息ついたところで、ちょうど良かったと思います。いろいろとご準備が大変だったことと思います。ありがとうございました。
- このままでもいいが、毎年行わず、必要性があるときに行ってもいいと思います。
- Good points: The presentations were good and interesting. The presentations gave me some ideas about how to conduct classes.
Not-so-good points: 1. The workshop was a little too long. Instead of starting at 10:00, maybe starting earlier would help so that the workshop ends before lunch time. The discussion session is probably the most important part of the workshop. Teachers may not have the energy to

continue with discussions if they are too hungry or worn out. 2. There were some problems with the hybrid workshop (online/in-class). It was difficult for me to hear what the presenters were saying and to see the documents on the screen in the classroom. I think having everyone attend on Zoom would have been the best option. Obviously, having discussions without masks on would be ideal, so again, Zoom would be better for discussions.

E-3-4. ワークショップの意義と今後の課題

新型コロナウイルスの感染拡大によって、2020年度前期は全学で前期の授業は原則として遠隔授業となった。教室での対面授業を実施できないという、誰も経験したことのない事態となり、すべての学生と教職員が、突然新たな対応を迫られることとなった。人との接触を極力控えながらの生活の中でも様々な授業運営の可能性を模索し、得られた知見、悩みや課題を共有できる貴重な機会として、毎年ワークショップを開催できた意義は大きい。それは、毎回ワークショップ開催後に実施したアンケート結果で肯定的なコメントが多いことから窺える。今後は感染の終息が視野に入りつつあり、ワークショップもテーマや対象者、開催頻度等を含む新たな切り口での展開の検討も考えられる。

E-4. 鹿児島大学共通教育における英語教育活動報告書について

これまで共通教育センター外国語教育部門の前身にあたる教育センター外国語教育推進部の時に4冊（下記1～4）の報告書が公刊されている（平成22（2010）、平成23（2011）、平成25（2013）、平成26（2014））。その後、共通教育センター外国語教育部門（既修語系）として3冊（下記5～7）の報告書が公刊されている。（平成29（2017）、平成31（2019）、令和2年（2020））。タイトルは以下に示す通りである。

1. 『鹿児島大学英語教育改革報告書 <平成20年度－平成21年度前期>』
2. 『鹿児島大学英語教育改革報告書 II <平成21年度－平成22年度>』
3. 『鹿児島大学英語教育改革報告書 III <平成23年－平成24年度>』
4. 『鹿児島大学英語教育改革報告書 IV <平成24年度－平成25年度>』
5. 『鹿児島大学 平成28（2016）年度共通教育 英語教育活動報告書』
6. 『鹿児島大学 平成29（2017）－平成30（2018）年度共通教育 英語教育活動報告書 II』
7. 『鹿児島大学共通教育 英語教育活動報告書 英語教育の成果について』

上記報告書の中で、7番目のもののみが、教育担当理事から依頼された報告書となり、それまでのものと内容が少し異なり、鹿児島大学共通教育センター英語教育の成果を示すものである。エビデンス（あらゆるデータ）で英語のプログラムを分析・評価している。使用する分析方法はデータのいわゆる三角測量で、多面的な角度から質的と量的なデータを用いながら分析する方法である。この報告書で集めたエビデンスによって、共通教育英語の健全さを訴える。そして、本報告書が8冊目の公刊となる（令和5年（2023））。

F. その他の活動について

その他の活動として、以下、補習教育と修学支援について報告する（F-1, F-2）。

F-1. 補習教育について

本学の場合、前回の英語教育活動報告書Ⅲでも触れたように、便宜上、補習教育と補完教育を区別して用いることがある。補習教育は、入学前までに必要な高等学校等での履修科目を前提にして「未履修科目のある学生に対する入学前後の教育」とする。他方、補完教育は、「入学後の共通教育、特に、専門教育との橋渡しとなる基礎教育科目において不合格だった学生や、低学力の学生、学力不足を実感した学生を対象とする。

補習教育については、共通教育センターでは補習教育の在り方検討WG等を通して、平成31(2019)年度まで、共通教育英語科目との連携という点から関わり続けてきた。

令和2(2020)年度の補習教育は、入学前に身につけておくべき英語力を、高校で展開される英語科目のうち、「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」とした。それは、AO、推薦Ⅰ入試による入学者である補習対象者の多くが、商業・工業・農業高校など専門学科の出身となっており、これらの高校の多くでは、「英語表現Ⅰ」を履修していないことが判明したことによる(鹿児島市の教科書販売店を通じて行った調査結果に基づく)。補習教育の実施形態は、入学直前と入学直後に実施する短期集中授業方式とし、この授業内容は「英語表現Ⅰ」の範囲とした。これにより、授業開始前に必要な英語力の差を補う機会を提供できるものと考えられたが、新型コロナウイルスによる感染防止体制を行う必要上、遠隔による授業実施の検討をする時間もないまま、中止とされた。

なお、入学前・補習教育は、平成31(2019)年度入学予定者に対して、ワオ・コーポレーションによるe-learningから朝日ネットを利用したe-learningへ変更されたが、朝日ネットによるe-learningは、著作権の関係により平成31(2019)年度限りで終了となった(数学、物理、化学、生物は利用続行)。令和2(2020)年度より英語に関する入学前・補習教育は行われていない。

F-2. 修学支援について

修学支援は、鹿児島大学の場合、保健管理センターならびに障害学生支援センターが母体となり、その働きを、全学をあげて教職協働のもとで支えている。本節では、学修・学習という視点から、触れておく。ここで言う「学修」には、当該クラスの履修を強調する含みがある。もちろん、学修をより広い概念である「学習」へ連続的につながる概念としてとらえても差支えはない。

学修支援という観点から、より全体的にみれば、視覚、聴覚等になんらかの支障のあることが事前に相談されていれば、各教員には教務経由で連絡が届く。とにかく、何かしらクラスの中でピンと気づくことがあれば、教員側からは適宜、障害学生支援センターや保健管理センターへ連絡が取れる体制となっている。両センターや学内FDなどを通して、必ずしも目には見えない障害を有する学生の増加が指摘されている。教員側の何らかの気づきが、学生のみならず教員をも支える学内の諸体制によって、さらによりよく気づかされることが少なくない。経験的にも、一人の学生に対する新しい配慮は必ずや、クラスのほかの学生たちへの修学、学習のあり方にもよい影響を与えることにつながる。小さな気づきを手がかりに、授業改善や教授法の向上へつなげてゆくことが可能である。当該の学生のみならず、少しずつ全体がよくなっていくことにつながる。

常勤、非常勤を問わず、英語を担当する教員のもとに、障害学生支援センター・共通教育係経由で何かしら相談のあった学生に対して、各教員は個別に対応を施してきた(記録の詳細は、個人情報保護の観点を前提に、障害学生支援センターの記録を参照されたい)。先の気づきに係るやりとりは、先の障害学生支援センター、保健管理センターをはじめ、各部局の学生担当窓口等によって支えられている(cf.

学生何でも相談室、男女共同参画推進センター、就職支援センター）。

令和 2（2020）年度に社会全体に生じたコロナ禍の影響（covid-19）は、令和（2022）年度に至る現在も続いている。令和 2（2020）年度は、基本、対面授業を遠隔授業へ全面的に切り替えられた時期があった（前期）。後期には 15 回のうち前半、後半の 2 回ずつを対面によるスクーリングとする配慮も行われた。令和 3（2021）年度は、感染状況を見ながら、感染防止対策を徹底させながら、可能な限り対面授業を取り戻していく努力がなされ、令和 2（2020）年度に比べ対面授業を増やししながら、遠隔と対面による混合方式による授業形態が標準形となった。令和 4（2022）年度は全学的には対面授業をさらに増やす方向で動いているものの、遠隔授業は対面授業とのバランスのなかで一定数残っている状況である。教務委員会報告などによれば、特に共通教育では学部の専門授業と比べ、遠隔授業の割合は比較的高いとみられる。

このような、ある種特殊な過去 3 年間の修学環境の中で、英語教育は各担当教員の裁量と努力のもとで学生たちの修学を導いてきた。学期のはじめに個別のクラス担当教員別に障害学生支援センターより、「障害学生支援申請書」が送付されてくる場合があり、個別に、その配慮や支援の希望内容に応じた確認のもと、適切と思われる対応を適宜関連部署との連携をとりながら取れてきたものと考えられる。一律に組織的な対応策があるわけではなく、個別の申請内容に応じて各教員が対応していくスタイルが基本となっている。

令和 4（2022）年度には、障害学生支援センターより『教職員のための学生理解と修学支援ガイドブック「遠隔講義と修学支援—新型コロナウイルス感染症による影響と多様な学び—」』が全学配布となり、英語教員のもとにも届けられ、広く参考とされている。

教員としては普段から、学生からの様々なサインを見逃さず、タイミングを適切につかみ、声掛けをして学生とのやりとりを通じて様子を聞き取るように心がけることが肝要である。対面授業では、次のような点に注意が必要である。

- ・いつもと様子が違う
- ・遅刻や欠席が目立つ
- ・成績や取組方の変化
- ・表情・顔色の異変
- ・体格等の変化
- ・服装や身だしなみの乱れ

（cf. 鹿児島大学ホームページ「障害学生支援センター（修学支援センター）からの掲載文

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/syogaku/kyousyokuin.html> 令和 5（2023）年 1 月 14 日閲覧）

遠隔授業は対面授業と異なり、パソコン機械の介在や受講環境の要因などから、学生の様子を全体的にとらえることは難しいが、画面上や音声からの直観的な違和感をおろそかにしない点が重要と思われる。その工夫や努力は、日々の授業の中で鋭意積み重ねる必要があるが、たとえば、チャット機能経由での書き込みを含め、ミニッツペーパーに準じた報告（LMS を通じた伝送信）などを学生へ要請することで、学生側にみられる修学上の変化をある程度は把握するきっかけをつかむことができよう。

結語

本報告書は、令和 2（2020）年度から令和 4（2022）年度における共通教育センター外国語教育部門（既修語系）の活動内容を報告したものである。同時に、コロナ禍で教員が対応してきたことの記録でもある。令和 1（2019）年目は、教員は情報収集を行い、学び、お互いに協力しながら対応してきた。また、部門の垣根を越えて教員間で助け合いながら、日々の授業を実施してきた。共通教育センターでは、大学で方針が出るたびに、センター長、副センター長、各部門長、事務と集まり、話し合い、対応を協議してきた。

様々な学びの中で、全教員が **manaba** の使い方と **Zoom** の使い方を身につけ、今では当たり前にかこれらを使用しながら、授業を行っている。また、新たな授業形態として、対面と遠隔授業を取り入れたハイブリッドでの授業もできるようになった。今後は、これまで身に着けた ICT の知識を活かしながら、より良い授業を行っていけるように努めていきたい。

鹿児島大学共通教育 英語教育活動報告書 IV

令和 5 (2023) 年 3 月 31 日発行

編集・発行：鹿児島大学 総合教育機構 共通教育センター 外国語教育部門 (既修語系)

原 隆幸*、金岡 正夫*、高橋 玄一郎*、村山 陽平、Brasier, Anne、

Hamciuc, Monica、Gyulemetov, Nikolay、内尾 ホープ、藏本 真衣、

日高 佑郁

(*編集)

〒890-0065 鹿児島県 鹿児島市 郡元 1 丁目-21-30

TEL: 099-285-3705
